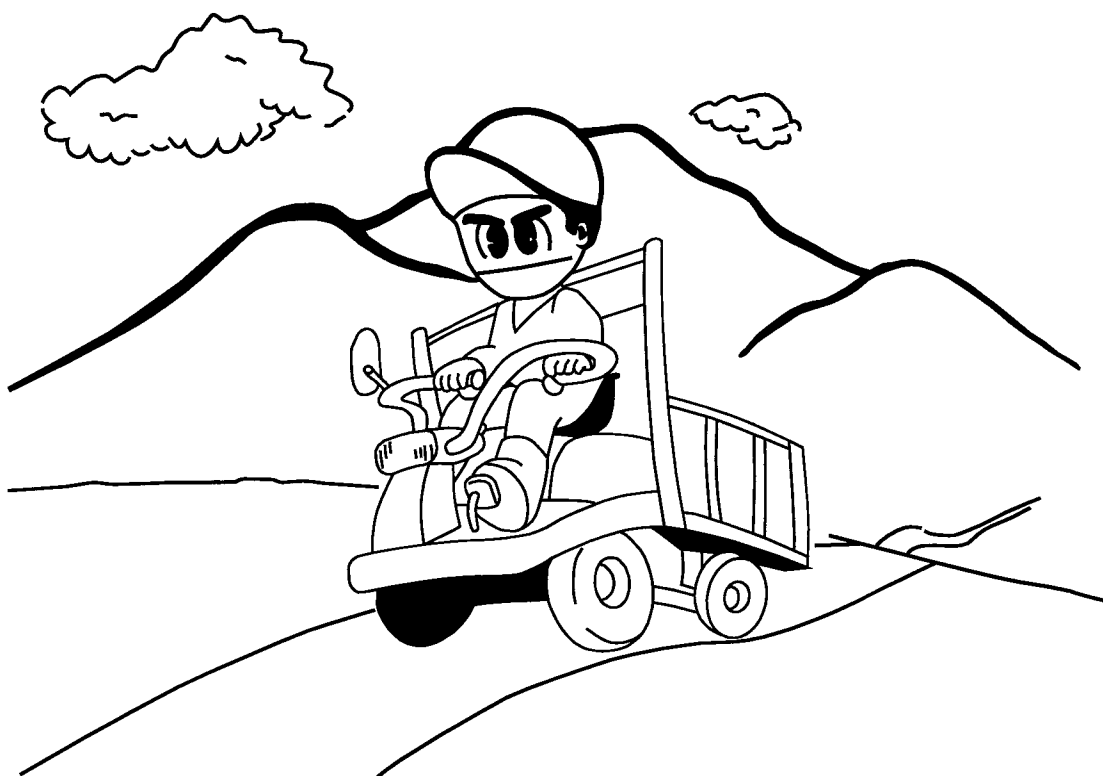


ホイール型運搬車

取扱説明書



SL50

SL55

ご使用の前に必ずお読み下さい。

atex

はじめに

- このたびは、本製品をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。
- この取扱説明書は、本製品を使用する際にぜひ守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、最適な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成されています。
- 本製品を初めて運転される時はもちろん、日ごろの運転・取り扱いの前にも取扱説明書を熟読され、十分理解の上、安全・確実な作業を心がけてください。
- この取扱説明書は、いつでも取り出して読むことができるよう大切に保管してください。説明書を紛失・損傷された場合は、速やかにお買い上げいただきました販売店にご注文ください。
- 貸与、または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書を添付してお渡してください。
- なお、品質・性能向上あるいは、安全性の向上のため使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容・イラストなどの一部が、本製品と一致しないことがありますので、ご了承ください。
- もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買い上げいただきました販売店にご相談ください。
- この取扱説明書の中の  **重要** 表示は、次のような安全上、取り扱い上の重要なことを示しています。よくお読みいただき、必ず守ってください。

表 示	重 要 度
 危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しています。
 警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しています。
 注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しています。
 重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しています。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

はじめに

- この取扱説明書では、同じシリーズの各型式・区分の製品について併記してあります。お買い上げいただいた本製品の型式・区分名を機体に貼付してある銘板で確認され、該当する部分をよくお読みください。

型 式	仕 様
S L 5 5	4 輪／4 輪駆動（パートタイム）
S L 5 0	4 輪／後 2 輪駆動

区 分	装 備 内 容
D B	油圧ダンプ・横枠六角水平・前枠アーチ（標準）
D E B	油圧ダンプ・横枠六角水平・セルスタータ 前枠アーチ（標準）
K B A	平荷台・枠三方六角水平・果樹園仕様 前枠アーチ（標準）
K E B A	平荷台・枠三方六角水平・セルスタータ・果樹園仕様 前枠アーチ（標準）
K E B	平荷台・枠三方六角水平・セルスタータ・果樹園仕様 前枠アーチ（低）

目 次

重要安全ポイントについて	2
安全表示ラベルの注意	3～4
小型特殊自動車としての取扱い	5～7
安全のポイント	8
安全な作業をするために	8～22
保証とサービス	23
各部の名称とはたらき	24
各部の名称	24
スイッチの名称とはたらき	25～26
操作レバー及びペダルの名称とはたらき	27～33
運転前の準備	34
運転前の点検について	34～35
運転のしかた	36
運転操作の要領	36～46
積載要領	47～48
油圧操作	49～50
点検・整備	51～59
各部の調整	60～73
手入れと格納	74～75
不調時の対応のしかた	76～81
農作業を安全におこなうために	82
一般共通事項	82～84
移動機械共通事項	85～86
サービス資料	87
主要諸元	87～90
外観図	91～92
配線図	93～94
注文部品および主な消耗品	95
索引	

重要・安全ポイントについて

1. 運行前には、
必ず始動点検を行ない、特に重要な保安部品（ブレーキ等）は、
確実に整備します。

2. 農道を走行するときは、
スピードを落とし路肩に注意します。

3. 圃場へ出入りするときは、
スピードを落とし畔に直角に走行します。

4. 機械の清掃・点検および調整をするときは、
必ずエンジンを止め、荷台降下防止をします。

5. 補助者と共同作業を行なうときは、
合図をし、安全を確認します。

6. ダンプ作業を行なうときは、
周囲の安全を確認します。

7. 荷物を積むときは、
積載重量を守りバランスよく、また荷動きしないようしっかりとロープ等で固定します。

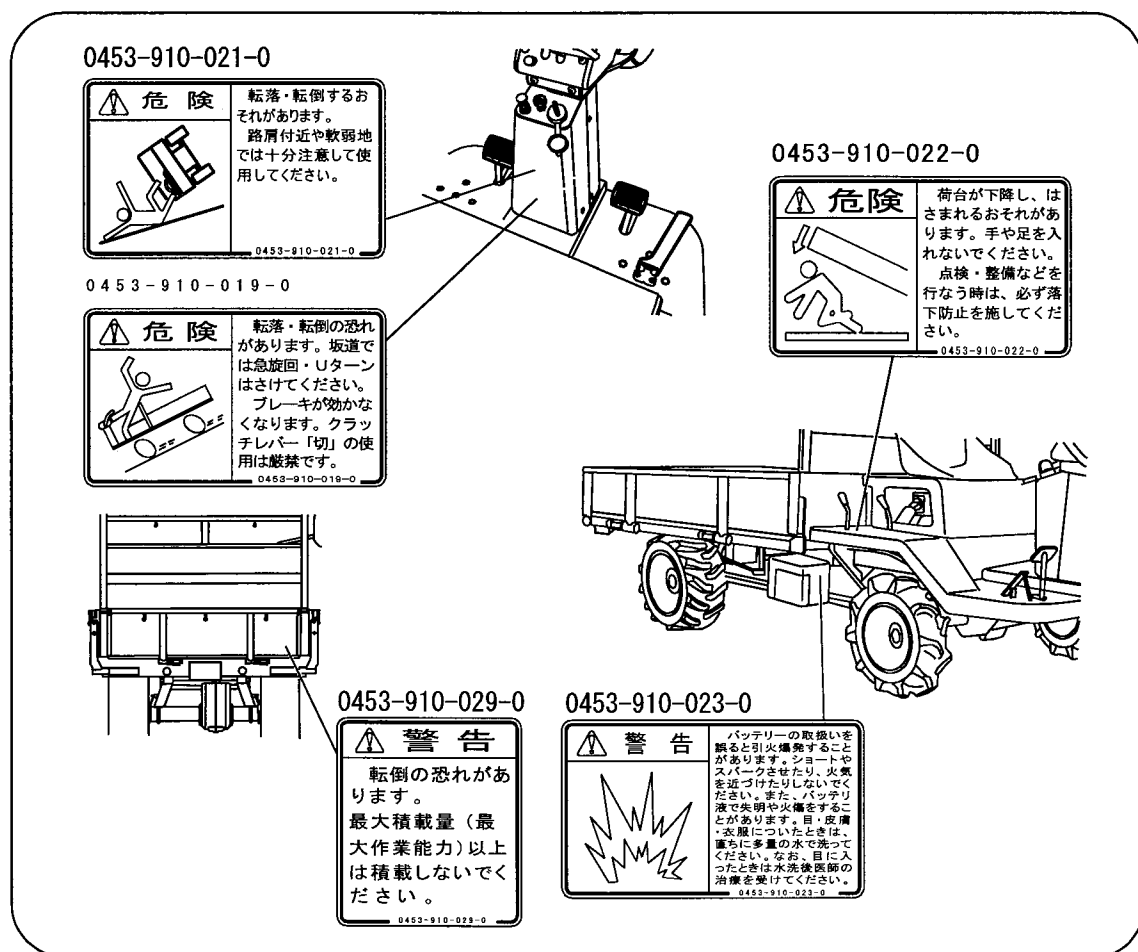
この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記の通りですが、具体的な安全上、取扱い上の重要なポイントについては、本書のなかで  **重要** の記号を付して表示し、説明しております。よくお読みいただくとともに、必ず守っていただくようお願いいたします。

安全表示ラベルの注意

- 本機には、安全に作業していただくため、安全表示ラベルが貼付してあります。
必ずよく読み、これらの注意に従ってください。
- 安全表示ラベルを破損・紛失したり、記載文字が読めなくなった場合は、お買い上げいただいた販売店へ注文してください。
- 汚れた場合は、きれいにふき取り、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合は、同時に安全表示ラベルもお買い上げいただいた販売店へ注文してください。
- 安全表示ラベルには、洗車時に直接高圧水をかけないでください。

安全表示ラベル貼付位置



安全表示ラベル貼付位置

0453-910-027-0

注意

本機を運転するときは、必ず取扱説明書をお読みください。

1. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認してください。

2. 運転前には、必ず点検や整備をしてください。

3. 点検や整備をするときは、必ず動力（エンジン・電機など）を停止してから行なってください。

4. 原動機の点検整備は、原動機が冷えてから行なってください。

5. 原動機は、加熱しますので周囲をいつも確認し、火災防止に、つめてください。

6. 点検整備で取り外したカバー類は、必ず元の通りに取付けてください。

0453-910-028-0

警告 積み降し要領

自動車への積み降し、アゼの乗り越えなどアユミを使用のときは、危険防止に注意のこと。

1. アユミ長さは、荷台高さの4倍以上のこと。
2. アユミは、ズレないようにしっかりとかけ、トラックは、エンジンを止め駐車ブレーキと歯止めのこと。
3. 本機とアユミを真っすぐ（平行）にすること。
4. アユミ上で方向変換しないこと。
5. 低速（1速又は、R速）で運転のこと。
6. 必ず誘導者を付けること。
7. 最上端では、機体の重心が移動し危険、注意のこと。
8. 本機は、駐車ブレーキと歯止めをし、ロープがけのこと。

アユミの基準

- 材質：金属製のスリッパしないもの。
- 強度：1本当り機体総重量に耐えられること。
- 長さ：荷台高さの4倍以上

0458-914-013-0

注意

走行クラッチを「切」にしないとエンジンが始動しません。

0458-914-011-0

注意

ハンドルを前に倒した状態で、公道を歩行または乗車運行しないでください。

0438-910-024-0

危険

障害物に、はさまれるおそれがあります。

進行方向の安全を常に確認してください。

0453-910-025-0

警告

急発進することがあり大変危険です。エンジンを始動するときはクラッチレバーの位置を「切」にし、周囲の安全を確認してから行なってください。

0329-910-034-0

警告

運転中又は回転中に回転部（ベルト、チェーン、プー）に触れると、ケガをま触れないでください。

0453-910-024-0

警告

接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまでは、さわらないでください。

0453-916-011-0

危険

引火のおそれがあります。

火を近づけないでください。

燃料：ガソリン

小型特殊自動車としての取扱い

重要 ●この運搬車は小型特殊自動車（ホイール・キャリア）として、道路走行車両の型式認定を受けております。ご使用の際は以下の点を遵守してください。

■小型特殊自動車とは

小型特殊自動車は、法で定められた右記の条件を満足していなければなりません。次のようなことは絶対にしないでください。

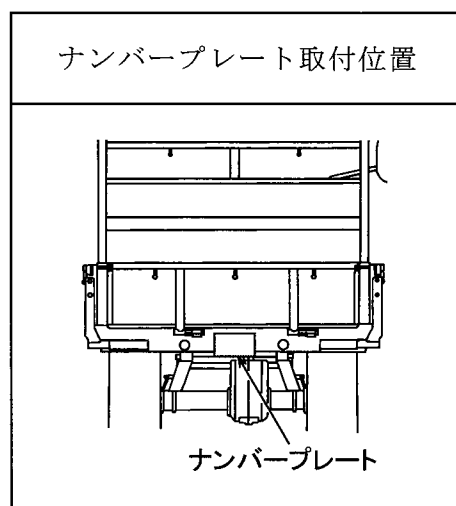
- ①運搬車各部構造の改造
- ②型式の異なるエンジンの搭載
- ③届出タイヤ以外のタイヤの装着
- ④各封印部分の開封

これらの改造変更は「不法改造」に該当し、違法行為となり一切の保証はいたしませんのでご注意ください。

車体の 大きさ	全長	4．7 m 以下
	全幅	1．7 m 以下
	全高	2．8 m 以下
最高速度		15km／時以下
原動機の総排気		1500cc 以下

■市町村役場への届出とナンバープレートの取付

- ① この運搬車の所有者となられた方は、市町村条例の定めにより市町村役場に届け出て、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。（6 ページ参照）
- ② 届出には小型特殊自動車取得証明書（「お買いあげ先」で準備いたします。）と軽自動車税および印鑑を添えて提出してください。
 なお、届出の手続きは、市町村により多少異なることがありますので、詳細は「お買い上げいただいた販売店」にご相談ください。
- ③ 交付されたナンバープレートは、運搬車後部のナンバープレート取付場所に確実に取り付けてください。



小型特殊自動車としての取扱い

■小型特殊自動車登録申請の手引き

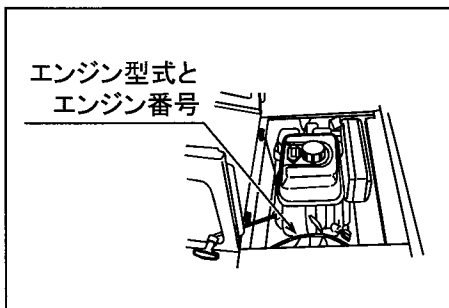
この車の所有者となった方は、市町村役場において小型特殊自動車の登録申請を行い、ナンバープレートの交付を受けてください。

(詳細な手続きは市町村役場窓口でお尋ねください。)

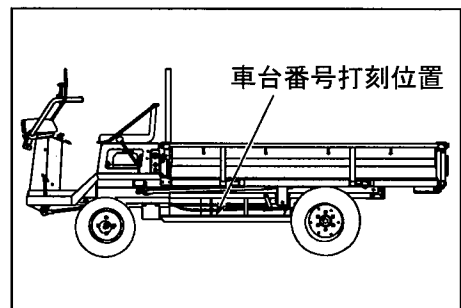
<市町村役場の登録申請書記載事項>

項 目 \ 機種型式	S L 5 0	S L 5 5
搭 載 エ ン ジ ン	カワサキ F E 1 7 0	
種 別 用 途	小型特殊自動車	
車 名	アテックス S L 4 1	
型 式	アテックス S L 4 1	
年 式	年式は購入された年を記入してください。	
原 動 機 番 号	エンジンの打刻を見て記入してください。	
原動機総排気量	1 7 1 cc	
車 台 番 号	車台番号はフレーム左側に打刻しています。	
型 式 認 定 番 号	特 7 3 9	
形 状	ホイール・キャリア	

原 動 機 番 号



車 台 番 号



■運転免許証の携帯

このホイール型運搬車を運転し、公道を走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる運転免許が必要です。公道を運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。

■保険について

小型特殊自動車は、自動車損害賠償責任保険に必ず加入してください。また、万一の交通事故補償に備えて、任意保険に加入しておかれることをお勧めします。

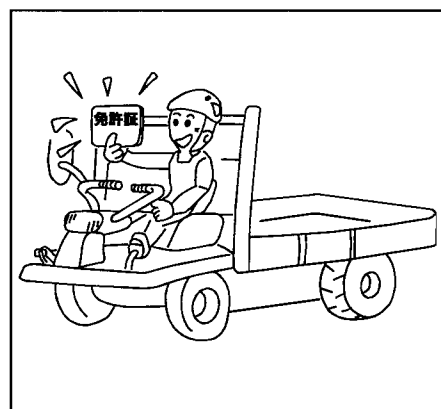
安全のポイント

安全な作業をするために

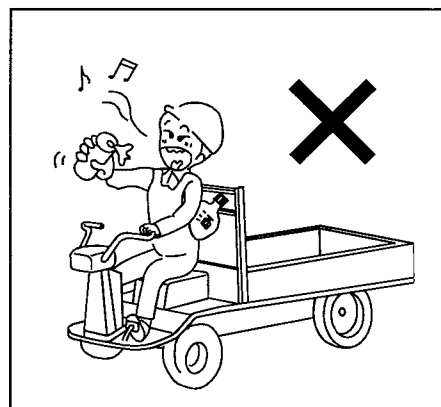
本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読されて、安全な作業を行なってください。

■運転者の条件

- (1) このホイール型運搬車を運転し、公道を走行する場合は、小型特殊自動車を運転できる運転免許が必要です。公道を運転中は、必ず運転免許証を携帯してください。



- (2) 飲酒時や過労ぎみの時、運転・作業をしてはいけません。このようなとき運転を行うと誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。運転・作業をするときは、必ず心身とも健康な状態で行ってください。

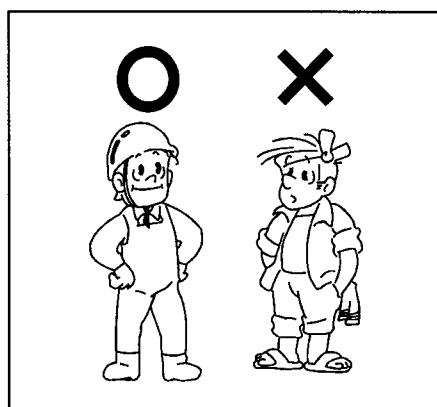


■作業前に

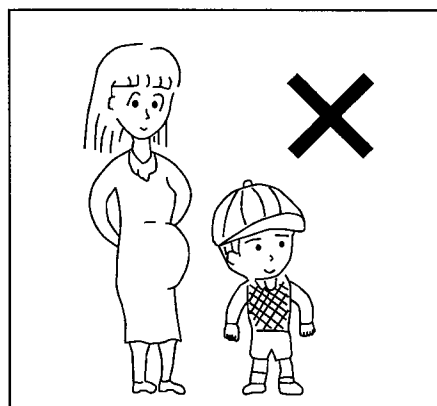
- (3) この「取扱説明書」をよく読むことから始めてください。これが安全作業の第一歩です。



- (4) 服装は、作業に適したものを着てください。服装が悪いと、衣服が操作レバーなどに引っ掛かったり、靴がスリップしたり大変危険です。

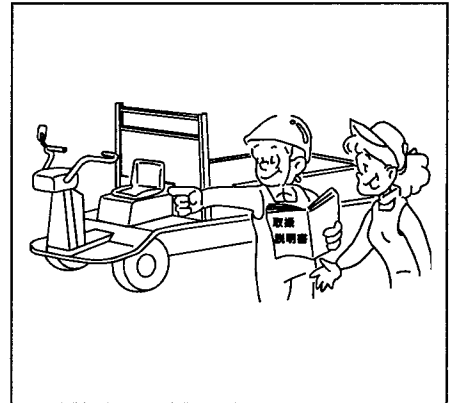


- (5) 妊娠している人、18歳未満の人、免許証を持っていない人は、運転をしないでください。



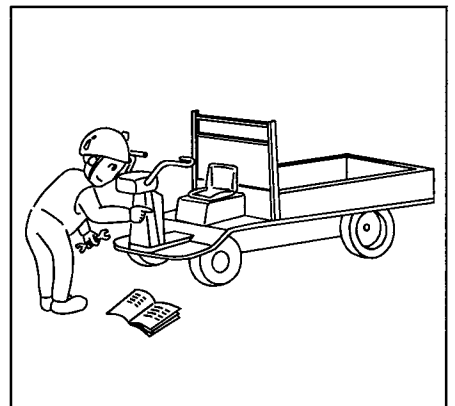
■人に機械を貸すときは

- (1) 機械を貸す時は、運転免許証の必要性、取扱いの方法をよく説明し、使用前に取扱説明書を熟読するよう指導してください。借りた人が、機械の運転に不慣れなため、思わぬ事故を引き起こすことがあります。

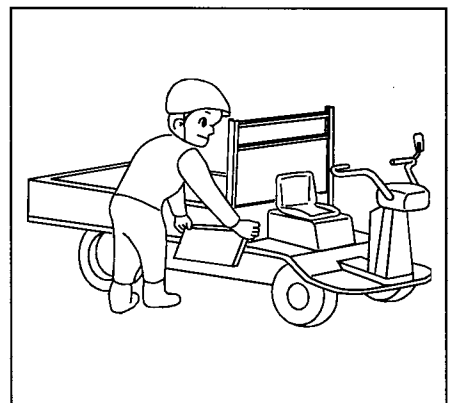


■運転を開始する前に

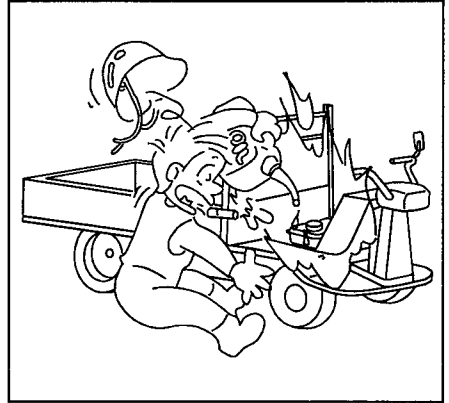
- (1) 無理、無駄のないゆとりのある運転計画を立てましょう。無理な運転計画は、あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- (2) 運転する前に、この取扱説明書を参考に必要な点検を必ず行ってください。点検を怠ると、ブレーキの利きが悪かったり、クラッチが切れなかったりして、走行中や作業中の思わぬ事故につながります。



- (3) 安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。外されたままエンジンをかけたり、運転作業を行うと危険な部分が露出して大変危険です。

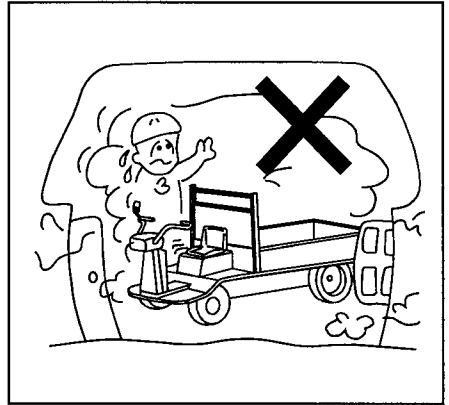


- (4) 燃料の補給や潤滑油の給油・交換をするときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。守らなかった場合、火災の原因になります。



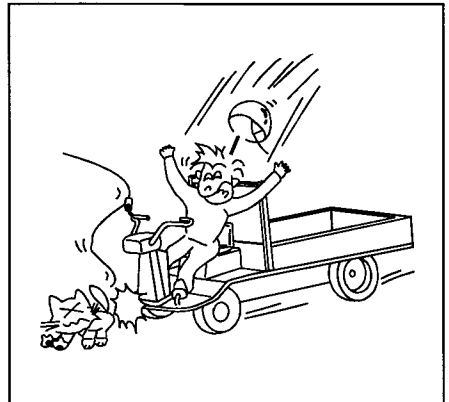
■エンジンの始動と発進

- (1) 室内でエンジンを始動するときは、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。



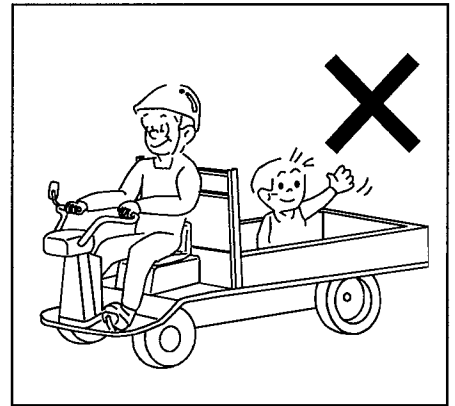
- (2) エンジンを始動するときは、走行クラッチレバーは「切」位置、ブレーキレバーは「駐車」位置にして行ってください。

また、万一来て備えて変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行って下さい。

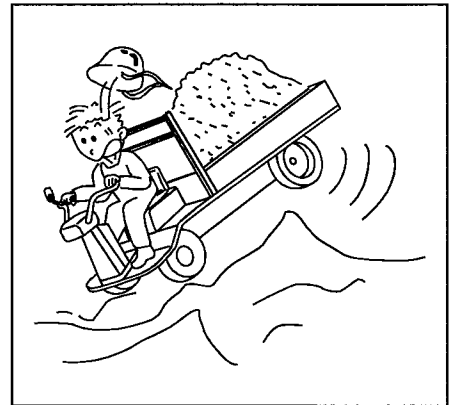


■走行するときは

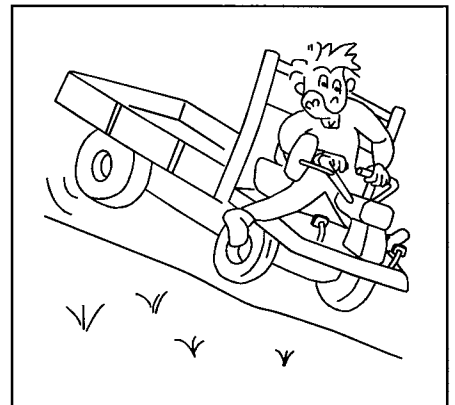
- (1) 本機は1人乗りです。いかなる場合も、荷台などに人や動物を乗せないでください。急旋回、重心の移動等により大変危険です。



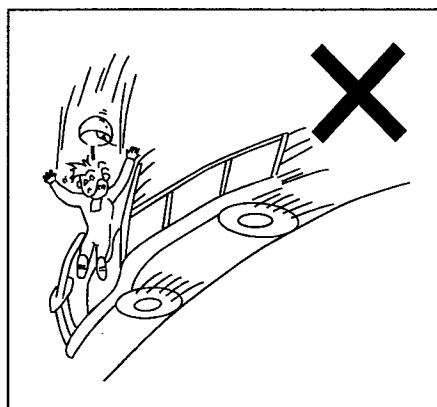
- (2) 凹凸の激しい道路・軟弱地盤・側溝のある道や両側が傾斜している道などで走行するときは、路面状態、積載状態に応じた安全な速度で運転してください。これを怠ると衝突・転倒・転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



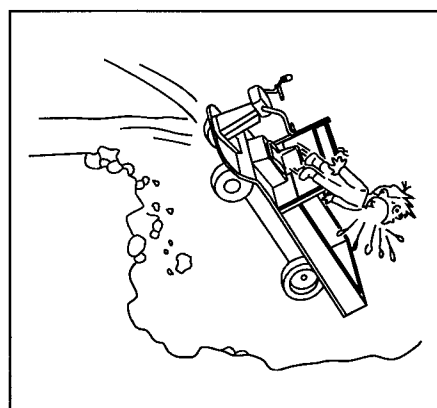
- (3) 傾斜地は、まっすぐに昇り降りしてください。斜面をよこぎると転倒する恐れがあり大変危険です。



- (4) 坂道を下るときは、エンジンブレーキを必ずかけ、走行クラッチレバーを切ったり、チェンジレバーを中立位置にしないでください。また、フットブレーキの多用は、ブレーキを傷めるとともに、スリップやブレーキの効きが悪くなる原因となり大変危険です。

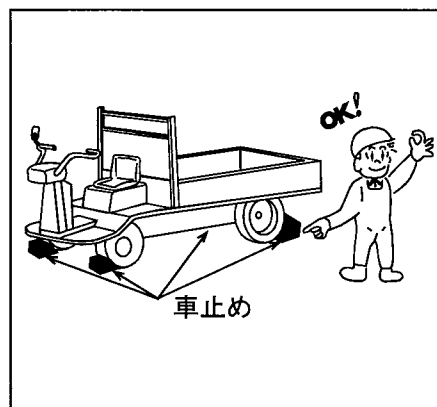


- (5) 軟弱基盤では低速で走行し、急加速・急旋回および停車はしないで下さい。



- (6) 側溝のある農道や両側が傾斜している道を走行するときは、速度を落として十分注意して走行してください。路肩が崩れて、転倒したりして大変危険です。

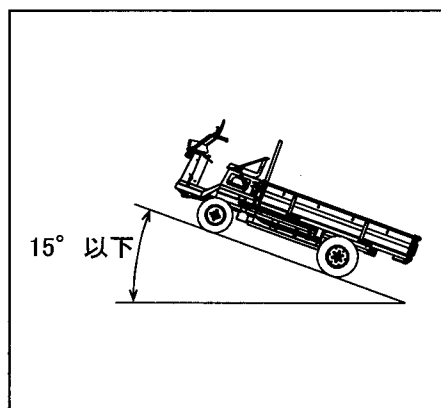
- (7) 本機から離れるときは、エンジンを停止し駐車ブレーキをかけ、ギヤを1速に入れ車止めをしてください。また駐車するところは、広い地面の硬い安全な場所を選んでください。機体が自然に動き出したりして大変危険です。



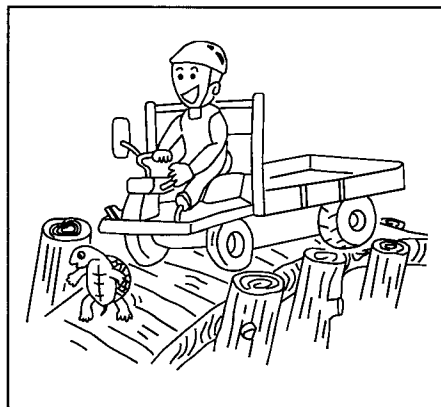
- (8) 本機を草やワラ等可燃物の上に止めて空
吹かしをしたり、エンジンを高回転にしたり
すると排気管の熱や排気ガスにより、ワ
ラなどに着火し火災の原因となる恐れがあ
ります。



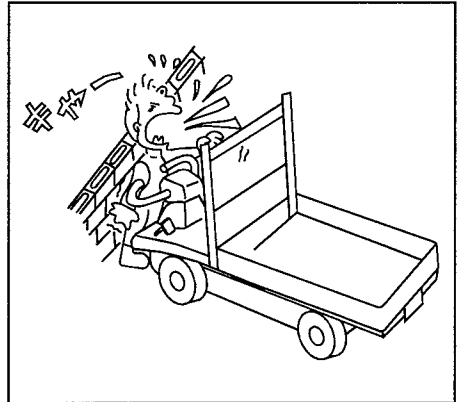
- (9) 15° 以下の傾斜地で使用してください。
また傾斜地での積載量は、300K g 以下にし
て走行してください。15° を越える急傾斜
地では走行しないでください。



- (10) 木橋等重量規制のある所を走行する場合は、
重量規制を守り、ゆっくりと静かに走行して
ください。

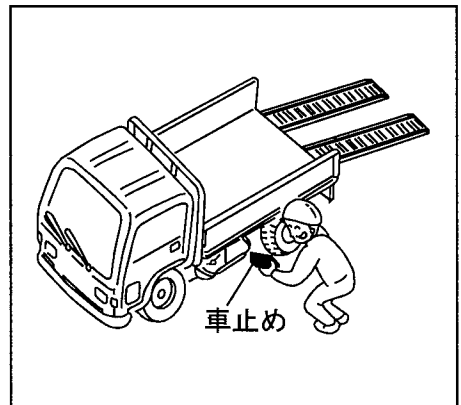


- (11) わき見運転や無理な姿勢で運転をしてはいけません。特に歩行運転時は、周囲の障害物にはさまれる恐れがあります。

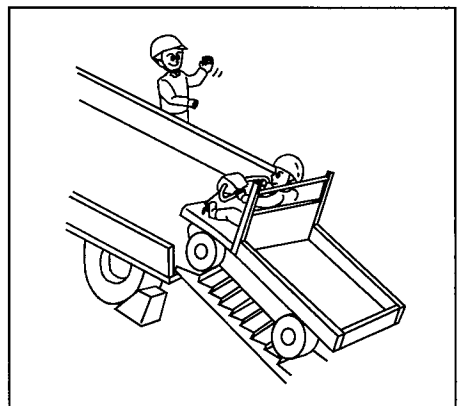


■トラックへの積み込み・積み降ろし

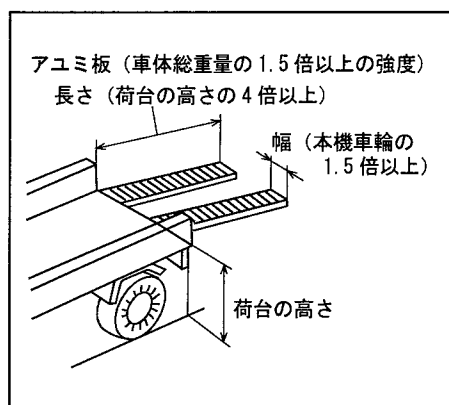
- (1) 積み込むトラックは、エンジンを止めて、変速を「1速」または「R速」位置にして、駐車ブレーキをかけ車止めをしてください。これを怠ると、積み込みや積み降ろしの時、トラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



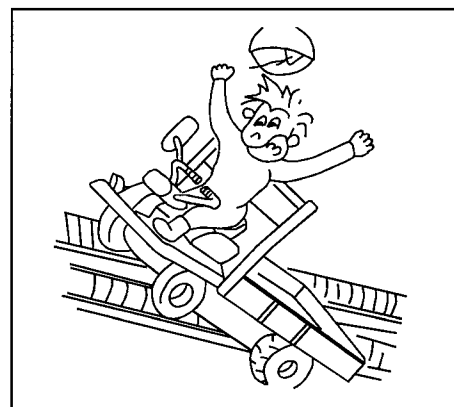
- (2) 誘導者を付けて、周囲の安全を十分確認して行って下さい。また、機械の直前や直後には絶対に立たないでください。傷害事故の原因となり大変危険です。



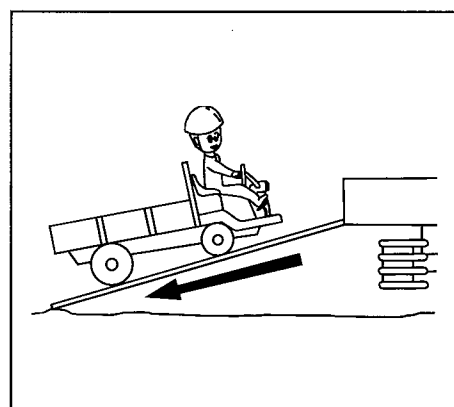
- (3) 積み込み・積み降ろしは、強度・幅・長さの十分あるスリップしないアユミ板を使用し、直進性を見定めて、積み込みは、「前進」、積み降ろしは「後進」でゆっくりと行ってください。これを怠ると、転落事故の原因となり大変危険です。



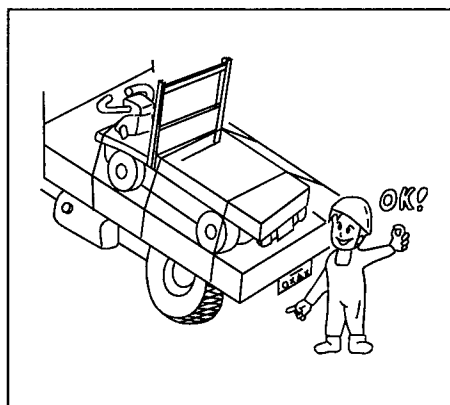
- (4) 積み込み・積み降ろし中は、クラッチペダルを踏み込んだり、走行クラッチレバーを「切」にしたり、ブレーキペダルを踏み込んだりしてはいけません。ハンドル操作を誤ったりして、落転事故の原因となり大変危険です。



- (5) 万一、途中でエンストした場合は、すぐにブレーキペダルを踏み込み、その後徐々にブレーキペダルを緩め、いったん道路、まで降ろし、改めてエンジンを始動してから行ってください。

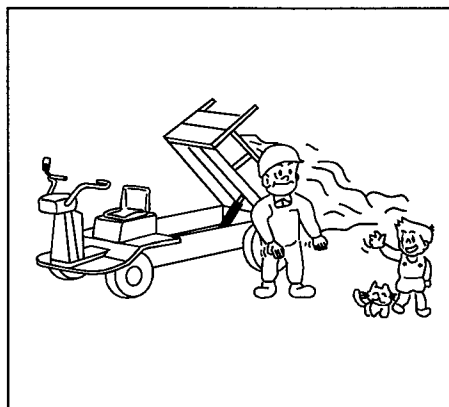


- (6) トラック等で運搬するときは、本機の駐車ブレーキをかけ車止めをして、必ずロープ等でトラックの荷台に固定してください。また、運搬中は不必要な急発進・急旋回・急ハンドルをしてはいけません。機械が移動して大変危険です。

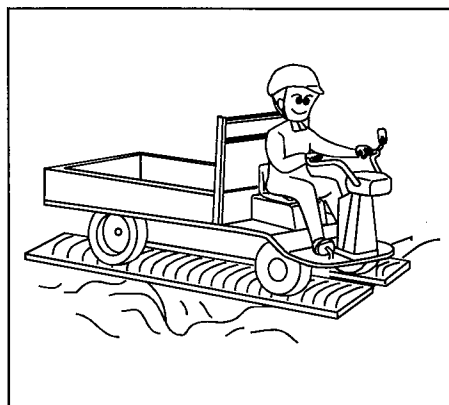


■作業中は

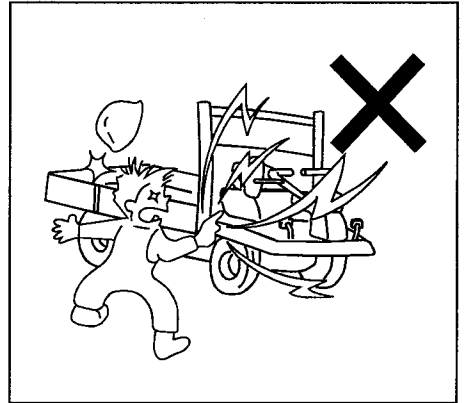
- (1) ダンプ作業などを開始するときは、周囲の安全を確認し、特に補助者とともに作業をするときは、ホーン等で合図してから行ってください。怠ると、傷害事故の原因となり大変危険です。



- (2) 畦の高さが高い圃場での出入りは、必ずアユミを使用してください。使用しなかった場合、衝撃で機械を破損させたり、傷害事故の原因となり大変危険です。

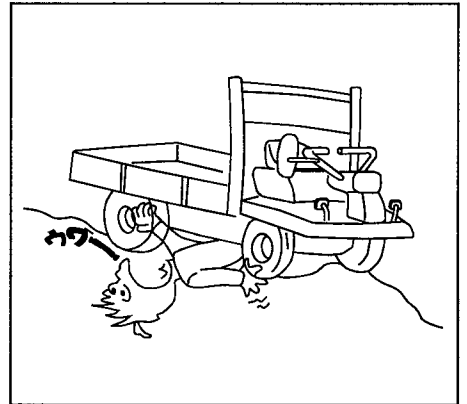


- (3) 回転部・エンジン・マフラー等の過熱部・バッテリー端子等の通電部など危険な箇所には、手を触れないようにしてください。傷害事故の原因となり大変危険です。

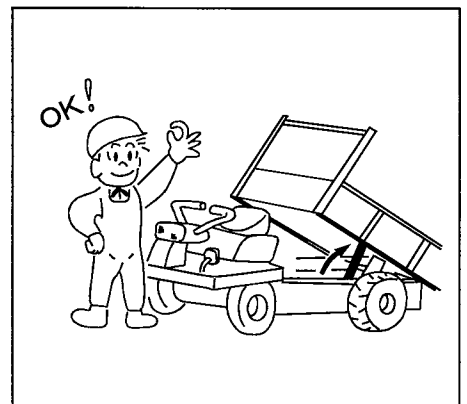


■点検整備

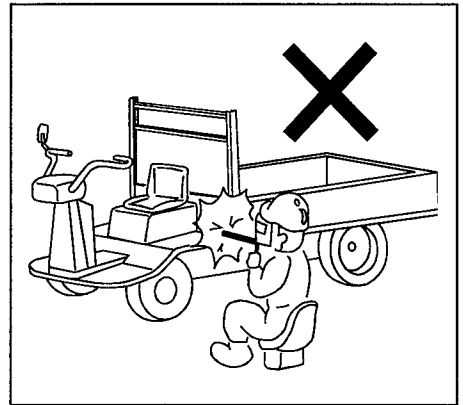
- (1) 点検整備するときは、明るく平坦な広い場所で行ってください。これを怠ると、思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



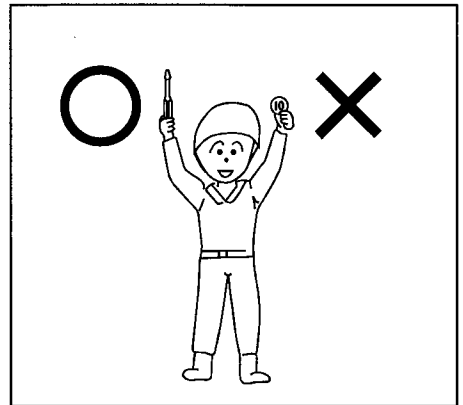
- (2) 必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけて行ってください。荷台をダンプしての点検整備の際は、荷台降下防止策を施してください。怠ると、挟まれたりして大変危険です。



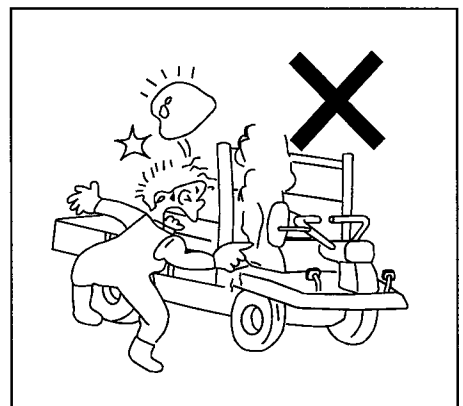
- (3) 機械の改造は絶対にしないでください。
機械の故障や事故の原因になり大変危険です。



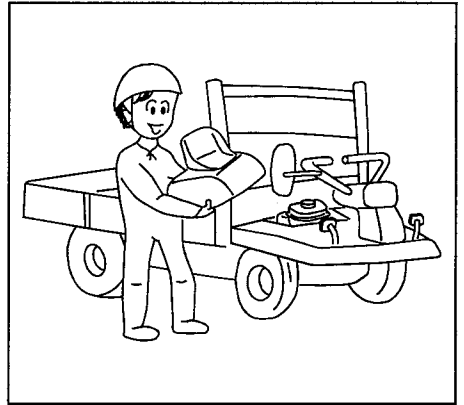
- (4) 適正な工具を正しく使用して行ってください。間に合わせの工具で行うと、整備中の傷害事故や、整備不良による思わぬ事故を引き起こし大変危険です。



- (5) エンジンを切つてすぐに、点検整備をすることはできません。エンジン等の過熱部分が、完全に冷えてから行ってください。怠ると、火傷などの原因になります。

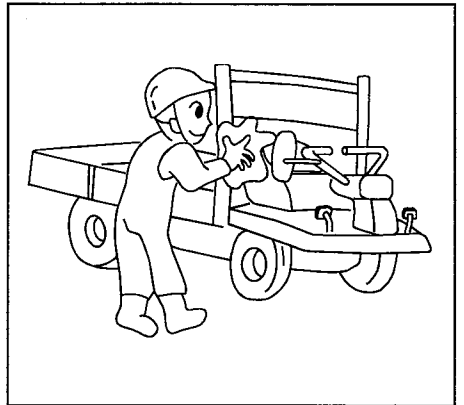


- (6) 点検整備で取り外した安全カバー類は、必ず元の通りに取り付けてください。回転部や加熱部がむき出しになり、傷害事故の原因となり大変危険です。

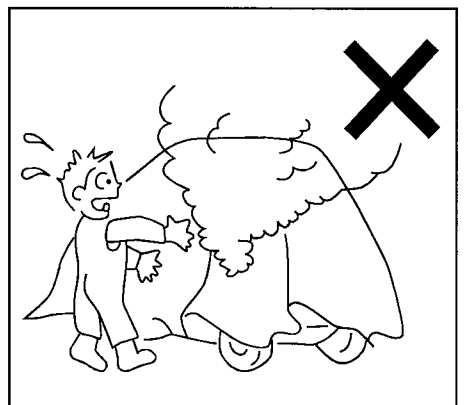


■保管・格納は

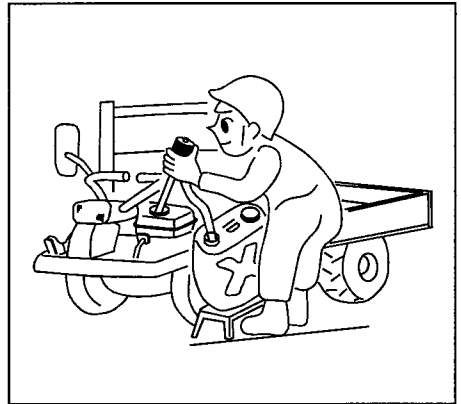
- (1) 動力を停止し、機体に付着したドロやゴミ等をきれいに取り除いてください。特にマフラーなどエンジン周辺のカバーは火災の原因となります。必ず取り除いてください。



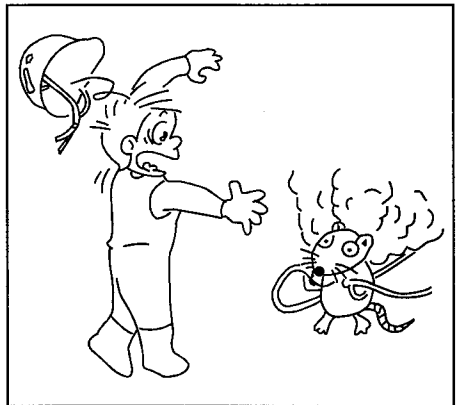
- (2) 子供などが容易にさわれないようにカバーをするか、格納庫に入れて保管してください。カバー類をかける場合は、高温部が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると火災の原因となります。



- (3) 長期格納するときは、燃料タンクや気化器内の燃料を抜き取りましょう。燃料が変質するばかりでなく、引火などで火災の原因となり大変危険です。

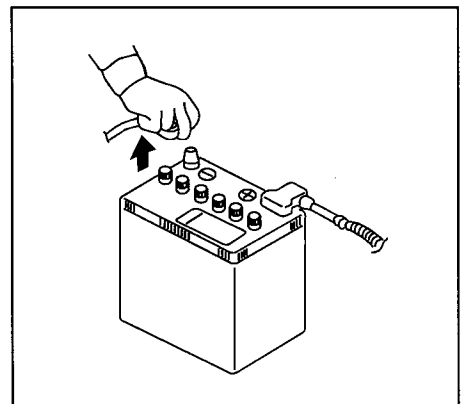


- (4) 長期格納するときは、バッテリーケーブルを外しておいてください。外しておかないとネズミ等がかじってケーブルがショートし、発火して火災の原因となり大変危険です。

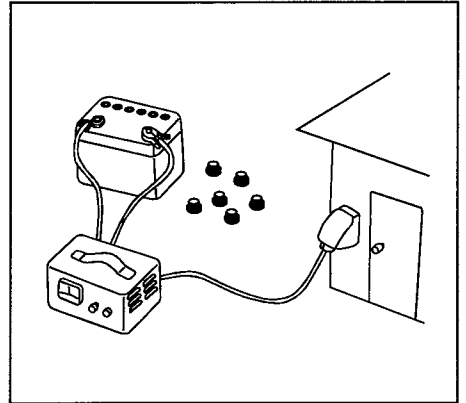


■電装品の取扱い

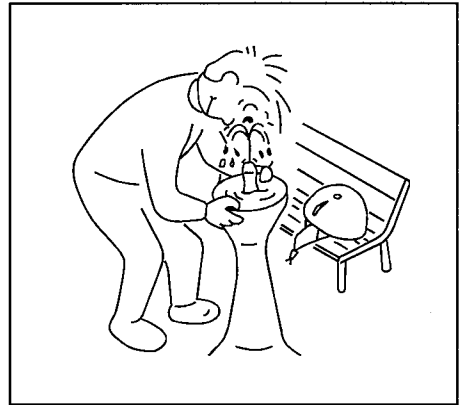
- (1) 電機配線の点検および配線接続部の点検は必ずエンジンを停止し、キースイッチを切りバッテリーの ⊖ コードを外して行ってください。これを怠ると火花が飛んだり感電したり思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



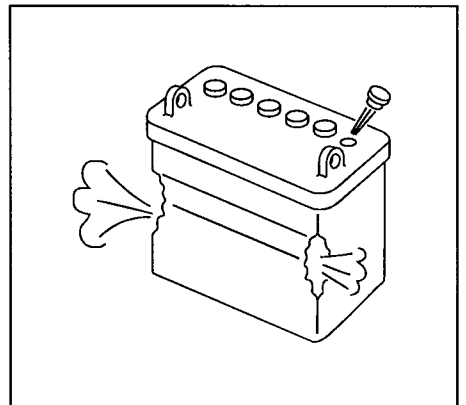
- (2) バッテリーを取り扱う時は、ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよいところでバッテリーの補水キャップを外して行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。



- (3) バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。体や服につけないようにしてください。失明や火傷をすることがあり大変危険です。もしついたときは、多量の水で洗ってください。なお、目に入った時は水洗い後、医師の治療を受けてください。



- (4) バッテリー液が下限以下になったまま使用を続けたり充電を行うと、容器内の各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあり大変危険です。



保証とサービス

■新車の保証

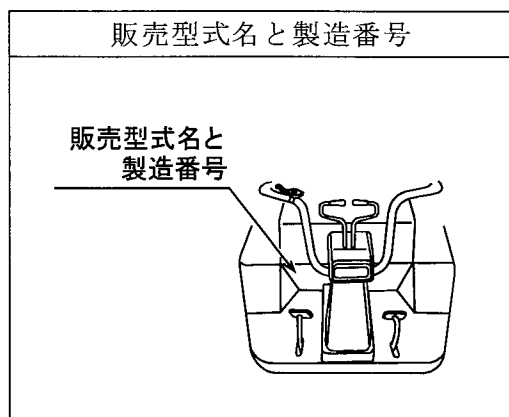
この製品には、(株)アテックス保証書が添付されています。詳しくは、保証書をご覧ください。

■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点、及びサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または指定サービス工場へお気軽にご相談ください。

その際、

- (1) 販売型式名と製造番号
- (2) エンジン型式とエンジン番号を併せてご連絡ください。



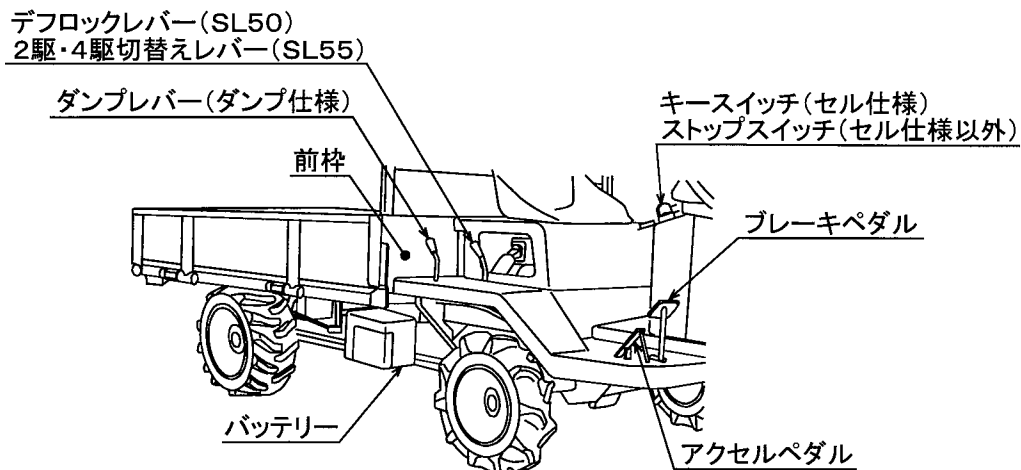
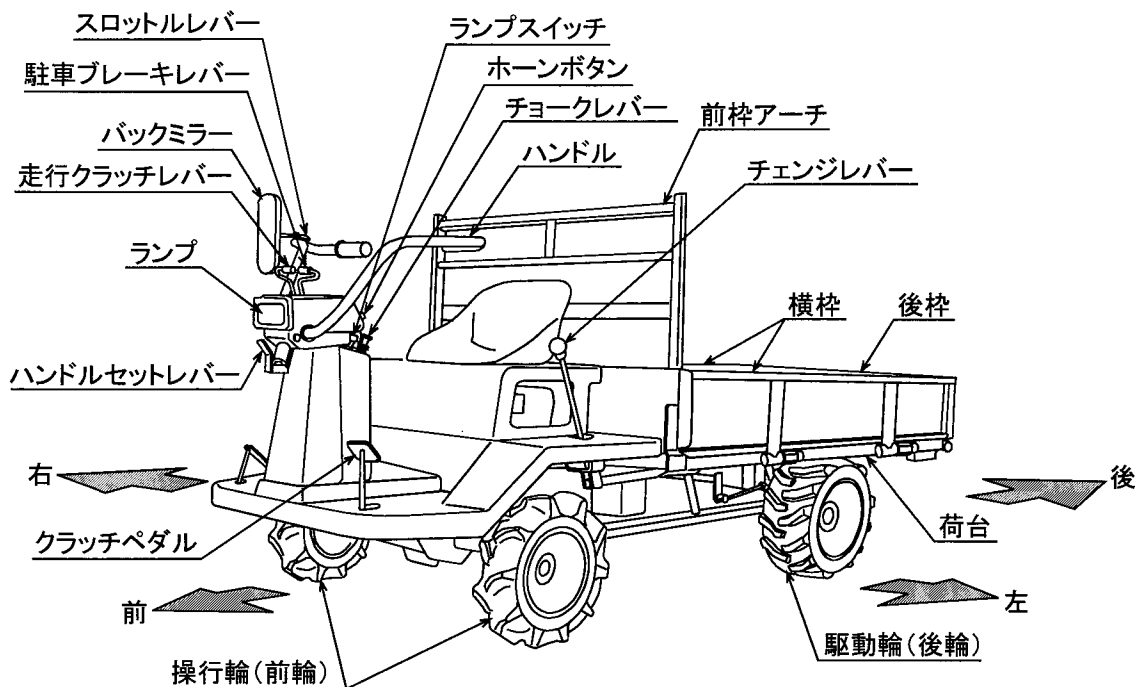
■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年といたします。ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称とはたらき

各部の名称



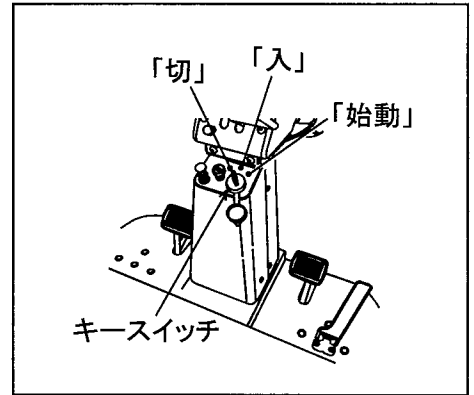
スイッチの名称とはたらき

■キースイッチ（セル仕様）

「切」……………エンジンが停止し、キーが抜き差しできる位置

「入」……………エンジン回転中の位置

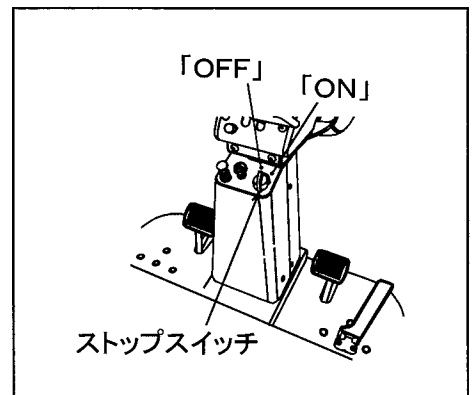
「始動」……………エンジン始動する位置
手を離せば自動的に「入」位置に戻ります。



重要 ●キーは確実に奥まで差込んでから回してください。奥まで差込んでいない状態で回すと、キーが折れたりキースイッチが破損したり、不具合につながります。

■ストップスイッチ（セル仕様以外）

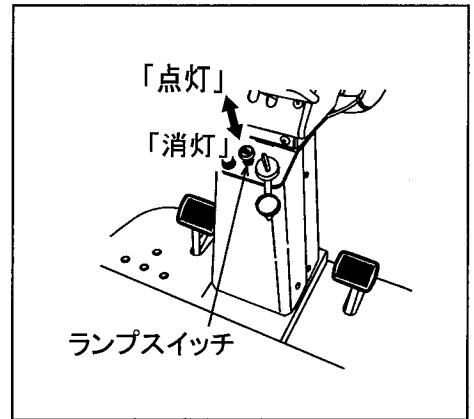
エンジン始動時は「ON」位置にします。
「OFF」位置にすればエンジンが停止します。



■ランプスイッチ

手前に引くとランプが点灯します。

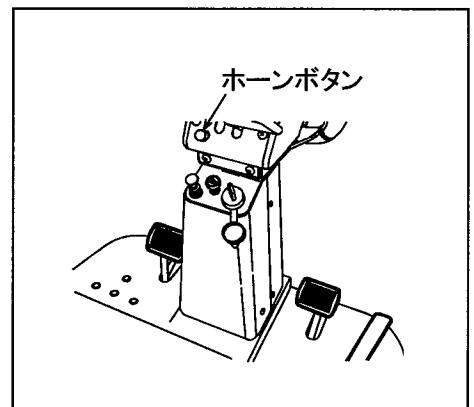
重要 ●セル仕様は、ランプ点灯時でも、キースイッチを「切」位置にすると、ランプが消えます。エンスト等によりエンジンが停止し、キースイッチが「入」位置の場合には、ランプは消灯しませんので、消し忘れのないように注意してください。



■ホーンボタン

セル仕様……………キースイッチを「入」にして、ホーンボタンを押すと警音になります。

リコイル仕様… ストップスイッチの「ON」・「OFF」に関係なく、ホーンボタンを押すと警音になります。



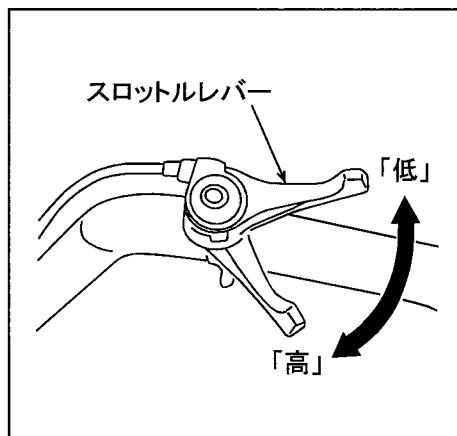
操作レバー及びペダルの名称とはたらき

■スロットルレバーとアクセルペダル

●スロットルレバー

スロットルレバーはアクセルペダルと連動しており、エンジンの回転数を制御するレバーです。主にダンプ作業時に使用します。

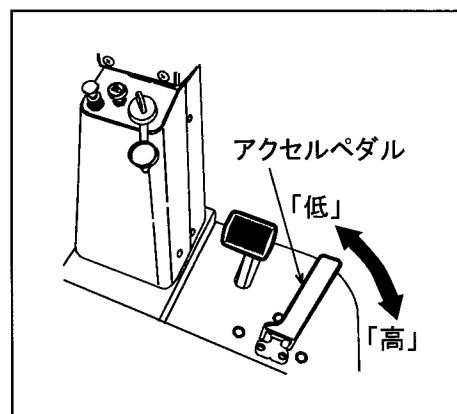
- ・手前に引くと高速回転になります。
- ・前方に押すと低速回転になります。



●アクセルペダル

主に道路走行時に使用します。

- ・ペダルを踏み込むとエンジン回転数が上がります。
- ・ペダルから足を離すとエンジン回転数がアイドリング回転まで戻ります。



警告

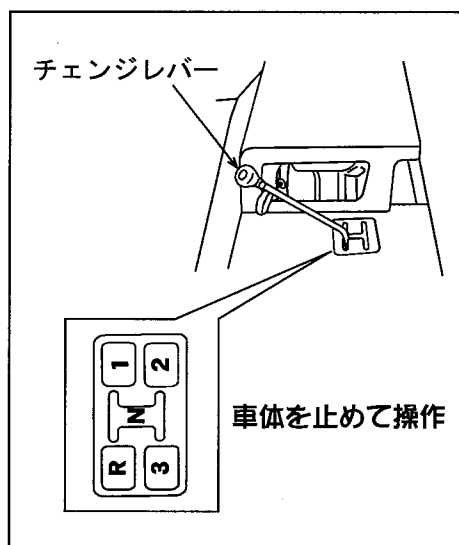
●スロットルレバーを高速にしたままだと、アクセルペダルは動きません。道路走行時は必ずスロットルレバーを低速にしてください。

■チェンジレバー

前進 3 速・後進 1 速変速ができます。

重要

- チェンジレバー切替は、必ず車体が停止した状態で行ってください。
- チェンジレバーの無理な操作は、ギヤーボックス内部破損の原因となります。絶対にしないでください。
- チェンジレバーがスムーズの入らない場合は、走行クラッチレバーが「入」の状態です。クラッチペダルをちょっとだけつなぎ、すぐに踏み込んで、再度チェンジレバーを操作してください。



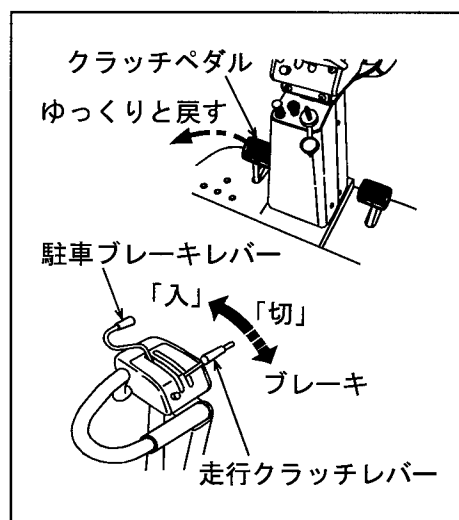
■走行クラッチレバー

走行クラッチレバーを「入」位置に入れると、エンジンの回転がベルトにより、ギヤーボックスに伝達されます。

走行クラッチレバーは、駐車ブレーキと連動しており、駐車ブレーキの支点越えの少し手前まで制動操作ができます。

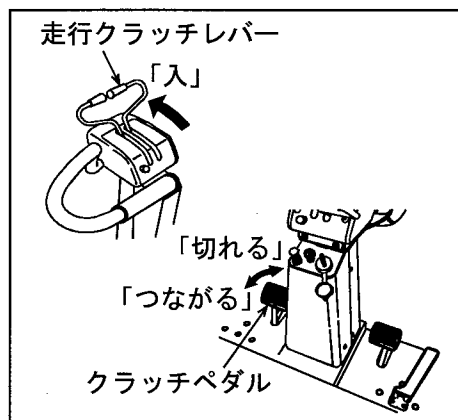
重要

- 走行クラッチレバーを「入」にし、クラッチペダルを踏み込んでからチェンジ操作を行い、クラッチペダルをゆっくりと戻すとスムーズに発進します。
- 走行クラッチレバーが入っていると、エンジンは始動しません。エンジンを始動する時は、必ず走行クラッチレバーを「切」位置にしてください。



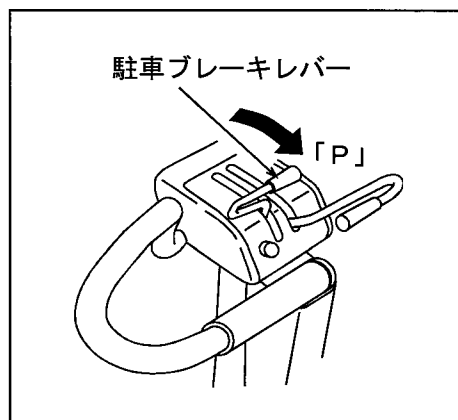
■クラッチペダル

走行クラッチレバーを「入」位置にした状態でクラッチペダルを踏み込むとクラッチが切れ、クラッチペダルから足を離すとクラッチがつながります。



■駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを「P」位置に入れると、駐車ブレーキがかかります。

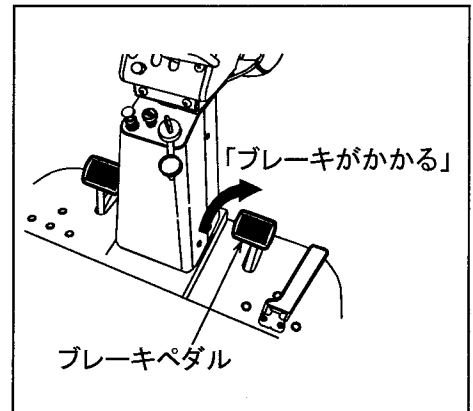


⚠️ 注意

- 駐車時、停車時には必ず駐車ブレーキを確実にかけ、車止めをしてください。これを怠ると車体が自然に動きだしたりして大変危険です。
- 駐車ブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキを痛めます。
- 乗車時に制動、停車する場合は、必ずフットブレーキペダルを使用し、駐車ブレーキレバー、走行クラッチレバーは使用しないでください。これを怠ると衝突事故や転倒、転落事故などの重大な事故を引き起こす恐れがあります。

■ブレーキペダル

駐車ブレーキレバーを「切」位置にした状態でブレーキペダルを踏むと、後輪にブレーキがかかります。

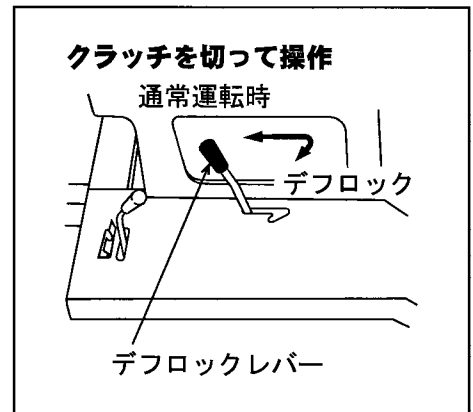


⚠警告 ●坂道走行時など常時ブレーキペダルを踏んでいると、ブレーキの摩耗が早く、ブレーキの効きが悪くなり、衝突・転倒事故を引き起こす恐れがあります。ブレーキは良く効くよう、必ず定期的に点検してください。

■デフロックレバー（SL50の全仕様）

軟弱不整地や後輪の片方のみが回転して発進できない場合に使用できます。

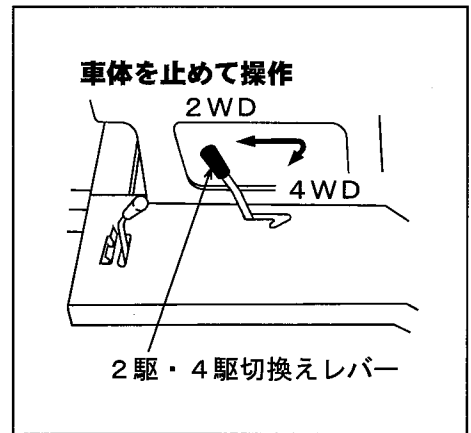
- 重要** ●デフロックレバーを操作する時は、必ずクラッチを切ってから操作してください。
- 通常走行時には、デフロックは使用しないでください。



■ 2 駆 ・ 4 駆 切 換 え レバ ー

レバー操作により、後輪駆動（2WD）・4輪駆動（4WD）の切換えができます。

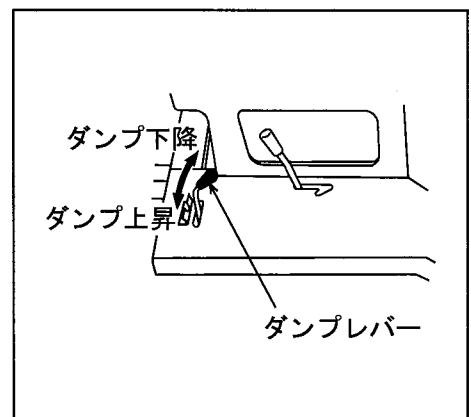
- 重要**
- 2WD $\longleftrightarrow$ 4WDの切換えは、車体が停止した状態で行ってください。走行中に切換えると、2駆・4駆の切換え部が破損する恐れがあります。
 - 通常走行時はできる限り後輪駆動で走行してください。軟弱不整地や後輪がスリップする様な場合のみ、4輪駆動を使用してください。



■ ダンプレバー（各型式のダンプ仕様）

ダンプレバーを操作すると、荷台がダンプします。

- 乗車運転時、前進方向に向かって
- 左に倒す（手前に引く） $\longrightarrow$ ダンプ下降
 - 右に倒す（外向きに押す） $\longrightarrow$ ダンプ上昇
 - レバー中央 $\longrightarrow$ 中立



警告

- 荷台が下降し、はさまれる恐れがあります。手や足を荷台下に入れないでください。
- 点検・整備などを行うときは、必ず荷台降下防止策を施してください。
- ダンプレバー操作を行わないときは、必ずレバーロックをかけてください。
- 走行中のダンプ操作は、油圧装置の破損につながるばかりでなく、ハンドル操作の誤りを引き起こし大変危険です。絶対にしないでください。

注意

- ダンプレバー操作は、上昇・下降いずれの場合にも、必ずエンジンをかけた状態で行ってください。ダンプ状態からエンジンをかけないで荷台を降下させると、シリンダ内部が真空となり正常な動きが損なわれます。また、油圧ポンプのエア抜き穴よりオイルが噴き出す恐れがあります。

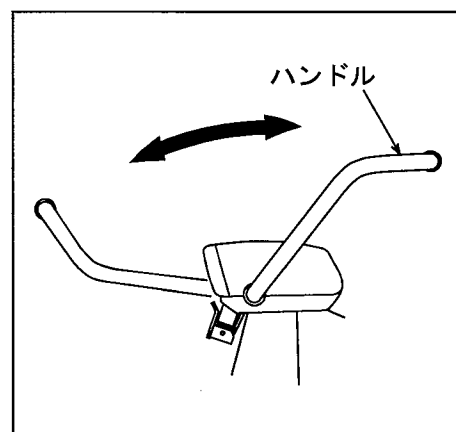
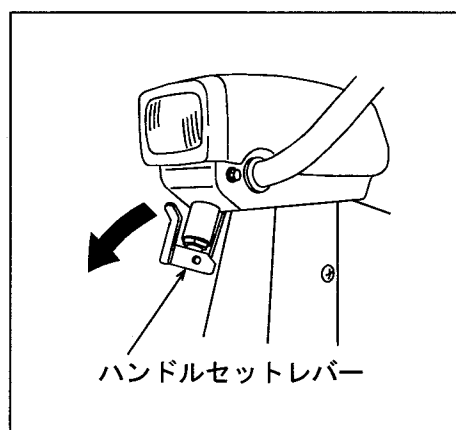
重要

- ダンプ下降状態からダンプレバーでダンプ上昇操作をしても、油圧ポンプのリリーフ弁が作動（ピーという音がでる）して、ダンプ上昇しない場合は、荷物の積み過ぎですので、荷物を減らしてください。
また、20秒以上連続でリリーフ弁を作動させないでください。リリーフ弁が作動したら速やかにレバーを中立位置に戻してください。油圧ポンプの破損につながります。
- 周囲の安全を確認してダンプ操作を行ってください。
- 足場の悪い所や、傾斜地でのダンプ操作はしないでください。

■ハンドルセットレバー

ハンドルは、歩行運転と乗用運転との切り換えができます。

- ハンドルセットレバーを操作して、ハンドル位置を切り換えてください。



⚠注意 ●国土交通省の指導により、公道上ではハンドルを前に倒した状態での歩行運転、乗車運転はしないでください。

重要 ●ハンドル切り換え後は、ハンドルを上下に動かしてみて、確実にロックされているかを確認してください。

運転前の準備

運転前の点検について



警告

●必ずエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、荷台をダンプさせたときは、荷台降下防止策を施してから行ってください。怠ると、手や衣服が巻き込まれたり、挟まれたりして大変危険です。

■始業点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさず行ってください。

点検は次の順序で実施してください。

(1) 前日、異常のあった箇所

(2) 車体を確認して

- エンジンオイルの量、及び汚れ…………… 53ページ
- 燃料フィルタの水、沈殿物の点検…………… 53ページ
- ギヤーボックスオイルの量、及び汚れ…………… 52・54ページ
- フロントデフオイル漏れの有無（SL55の全仕様）…………… 55ページ
- 油圧ポンプのオイル量、および汚れ（ダンプ仕様）…………… 52・55ページ
- 油圧駆動ベルトの張り具合、損傷（ダンプ仕様）…………… 62ページ
- 走行ベルトの張り具合、損傷…………… 62ページ
- バッテリー液の量…………… 59ページ
- タイヤの空気圧、及び摩耗・損傷…………… 68ページ
- エアクリーナの清掃…………… エンジン取扱説明書
- 燃料は十分か、燃料キャップの締め付け
- 車体各部の損傷、及びボルトやナットの緩み
- ナンバープレートの汚れ、損傷

(3) 運転席に座って

- ブレーキペダル、クラッチペダルの遊びと作動..... 63・64ページ
- 駐車ブレーキの作動..... 29ページ
- チェンジレバーの作動..... 28ページ
- バックミラーの汚れ、損傷

(4) エンジンを始動して

- スロットルレバー、アクセルペダルの作動..... 27ページ
- ランプの点灯..... 26ページ
- 排気ガスの色、異常音..... エンジン取扱説明書
- ホーンの作動..... 26ページ

(4) 徐行しながら

- ブレーキの効き..... 45・46ページ
- ハンドルの操作荷重、振れ、取られ、遊び

運転のしかた

運転操作の要領

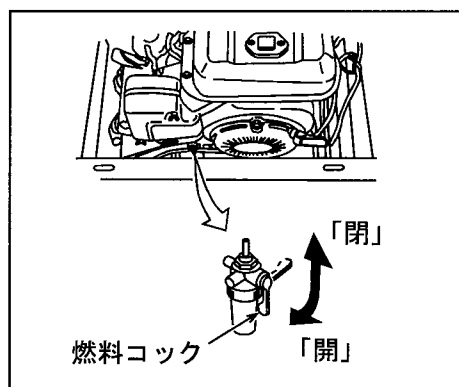
■エンジンの始動



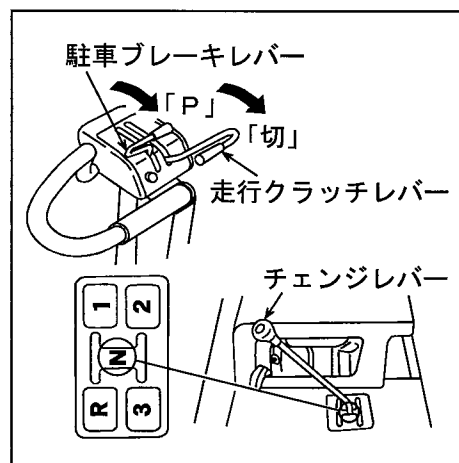
警告

- エンジンを始動する時は、変速レバーやその他レバー類の位置と、周囲の安全を確認してから行ってください。これを怠ると急発進したりして大変危険です。
- 室内でエンジンを始動する時は、窓や戸を開けて、換気を十分に行ってください。換気が悪いと、排気ガス中毒を起こし大変危険です。

- (1) 燃料の量を確認し、燃料コックを開けます。

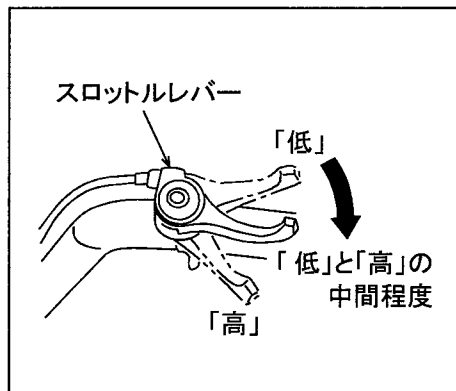


- (2) 駐車ブレーキがかかっている事と、走行クラッチレバーが「切」位置になっていることを確認します。



- (3) チェンジレバーを中立「N」位置にします。

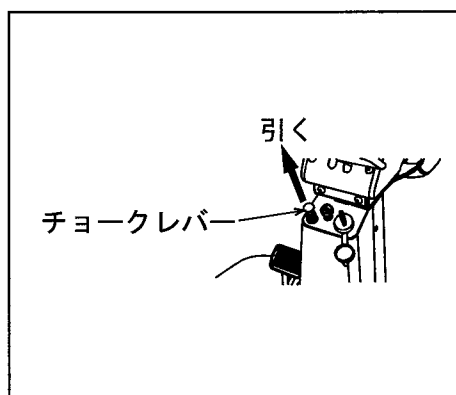
- (4) スロットルレバーを「低」と「高」の中間位置まで上げます。



- (5) チョークレバーを引きます。

●いっぱい操作（全閉）します。

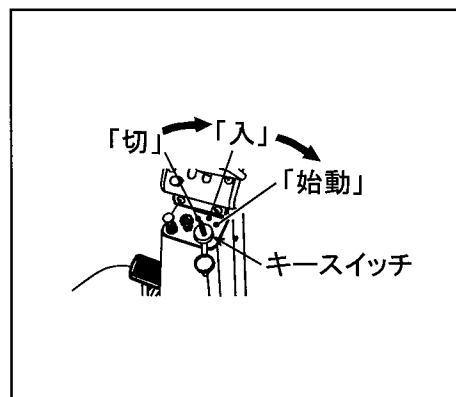
重要 ●エンジン始動後は、チョークレバー及びスロットルレバーを必ず元の位置に戻してください。スロットルレバー操作時にはアクセルペダルでエンジン回転数を下げることができません。



- (6) エンジンを始動させます。

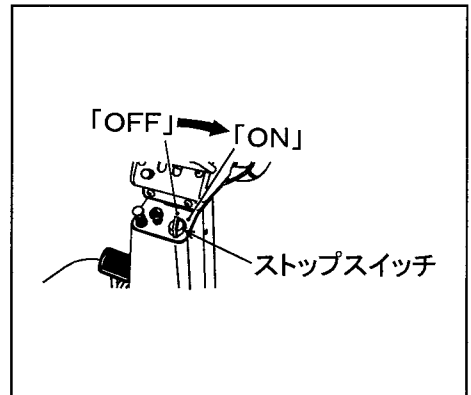
セル付 (各型式のセル仕様)

●キースイッチにキーを差し込み、キーを「始動」位置に回転し、エンジンが始動したら、ただちにキーから手を放します。セルモータが回らない場合はキーを「入」位置に回し、リコイルスタータで始動させることができる。



リコイル (セル仕様以外の各型式)

- ストップスイッチを「ON」位置にします。
- リコイルスタータを一気に引きます。この時、リコイルスタータは引ききらないようにしてください。また、ゆっくりと元に戻してください。



⚠注意

- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけておいてください。これを怠ると、機体が自然に動き出し大変危険です。

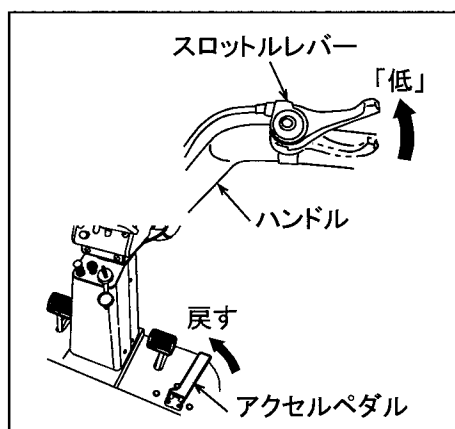
重要

- エンジンの暖機運転をしないで走行・作業をすると、エンジンの寿命が短くなります。3～5分程度の暖機運転をしてください。
- セルモータを10秒間回しても始動しないときは、30秒程休ませてから再操作してください。連続使用するとセルモータ破損の原因となります。
- エンジン運転中に、キーを「始動」位置にすると、セルモータが破損します。絶対にキーを回さないでください。
- 本機は安全の為、始動安全装置を備えています。走行クラッチレバーが「切」位置でないと、エンジンが始動しない構成となっています。

■エンジンの停止

▲警告 ●接触すると火傷することがあります。エンジン停止後、冷えるまでは触らないでください。

- (1) アクセルペダルが、またはスロットルレバーを戻して、しばらく低速運転してください。

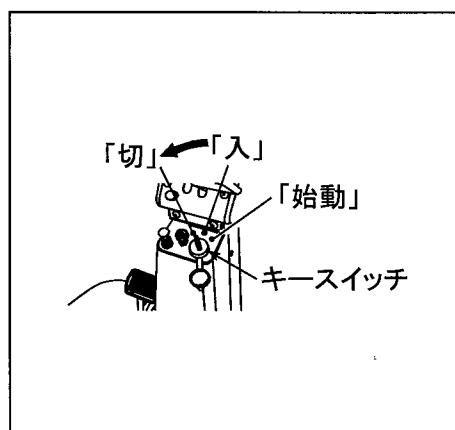


- (2) エンジンを停止します。

セル付

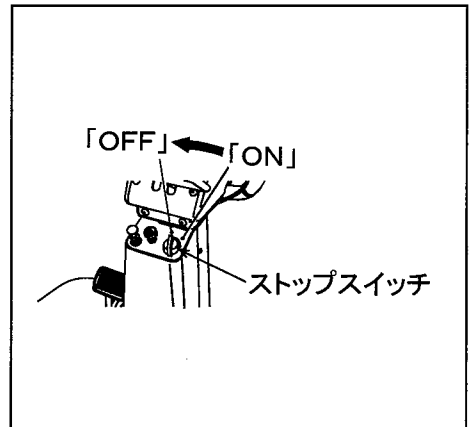
(各型式のセル仕様)

- キースイッチを「切」位置に回し、エンジンを停止します。エンジン停止後は必ずキーを抜いてください。

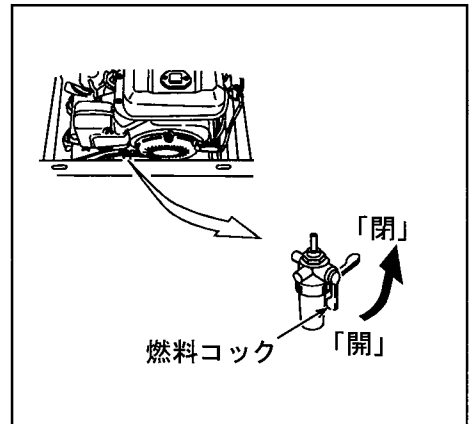


リコイル (セル仕様以外の各型式)

- ストップスイッチを「OFF」位置にしてエンジンを停止します。



- (3) 燃料コックを閉じてください。



- 重要**
- 万一、故障し、エンジンが停止しない場合は、燃料コックを閉じて燃料がなくなるまで放置してください。
 - エンジンを高回転のまま停止しないでください。
 - 運転後は、アイドリング回転で1～2分程度無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。特に長時間運転後は、アイドリング回転で3～5分程度、無負荷運転を行ってからエンジンを停止してください。

■発進・走行・変速のしかた

⚠危険

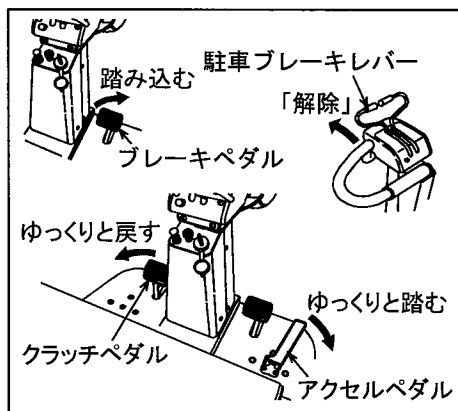
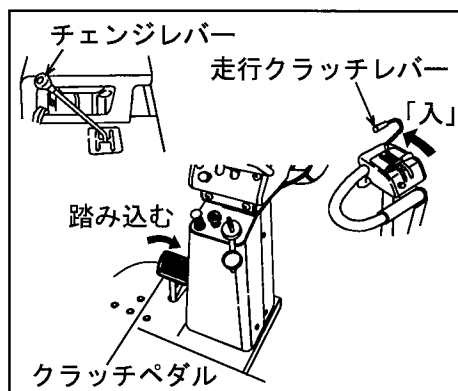
- 転落・転倒の恐れがあります。路肩付近や軟弱地では十分注意して使用してください。
- 障害物にはさまれる恐れがあります。特に歩行操作時は、進行方向の安全を常に確認してください。

⚠警告

- 道路を走行するときは、必ずアクセルペダルを使用してください。スロットルレバーで高速のまま走行すると、急に減速できず危険です。
- クラッチペダルは、ゆっくり離してください。急に離すと急発進して危険です。
- 運転中または、エンジン回転中に回転部（ベルト・プーリ等）に触れるとケガをします。触れないでください。

●発進・走行のしかた

- (1) チェンジレバー「N」位置にします。
- (2) 走行クラッチレバーを「入」位置にし、クラッチペダルを踏み込んでクラッチを切ります。
- (3) チェンジレバーを希望する変速位置に入れます。
- (4) ブレーキペダルを踏み込み、駐車ブレーキをはずします。
- (5) アクセルペダルでエンジン回転数を上げながらクラッチペダルをゆっくりと離します。



重要 ●走行中は、クラッチペダル、およびブレーキペダルから足を離してください。

●ベルトの寿命を伸ばすため、発進以外はできるだけ半クラッチ操作を避けてください。また、速度調整をクラッチペダルで行わないでください。

●変速のしかた

変速のしかたについては、28ページのチェンジレバーの項目をお読みください。

■旋回のしかた



警告

●旋回するときは、できるだけエンジン回転を落とし、必要な場合は変速をして低速にしてください。高速で急旋回すると、ハンドル操作を誤ったりして事故につながり大変危険です。

■坂道での運転



危険

●転落・転倒の恐れがあります。坂道では急旋回・Uターンは避けてください。

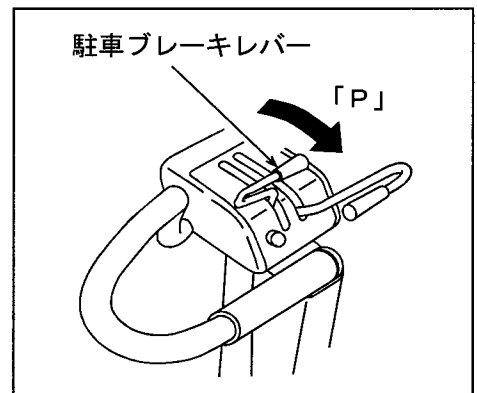


警告

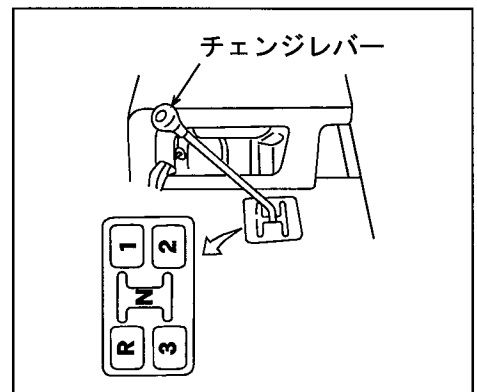
●坂の状況に応じた安全なスピードで走行してください。スピードを出しすぎると思わぬ傷害事故を引き起こす恐れがあります。
●坂の途中では、クラッチを切ったり、変速レバーを中立にしないでください。また、下り坂では、エンジンブレーキを使用し、フットブレーキの多用はしないでください。これを怠るとスリップや転倒事故の原因になり大変危険です。

●急な上り坂での発進

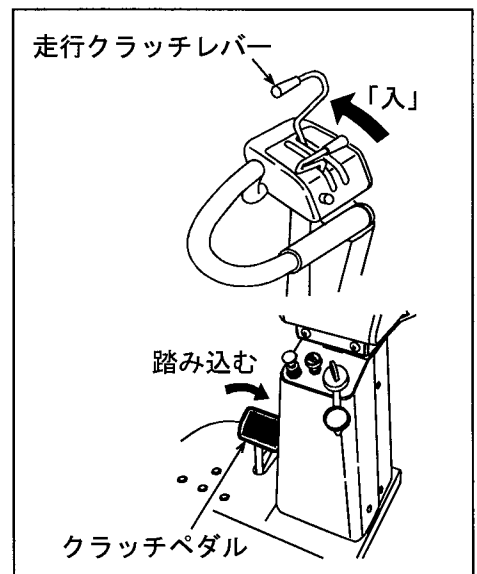
(1) 駐車ブレーキをかけます。



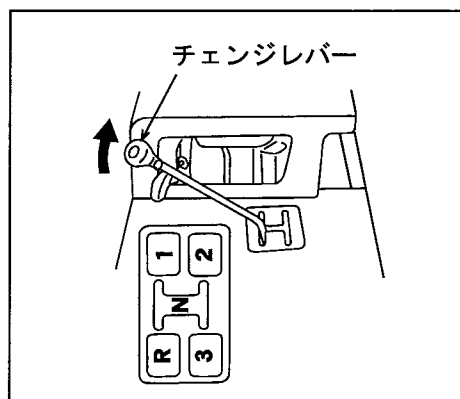
(2) チェンジレバーを「N」位置にします。



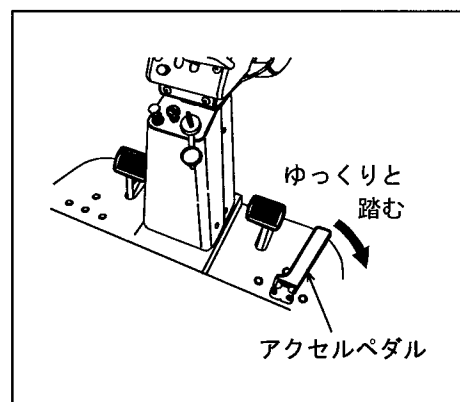
(3) 走行クラッチレバーを「入」位置にし、クラッチペダルを踏み込んで、クラッチを切ります。



- (4) チェンジレバーを「1 速」位置に入れます。

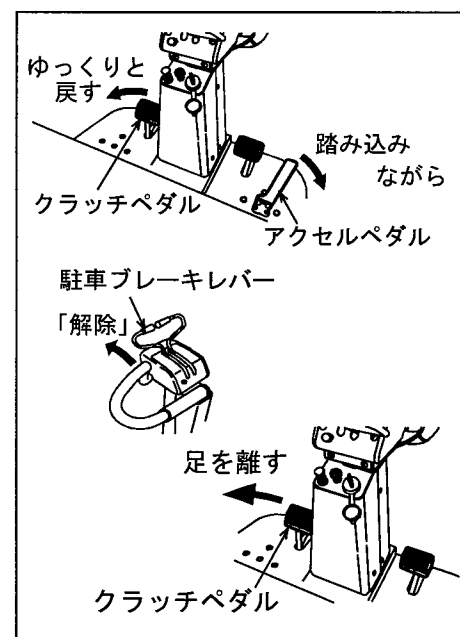


- (5) アクセルペダルを踏み、エンジン回転数を上げます。



- (6) クラッチペダルをゆっくりと戻し、半クラッチ状態にします。

- (7) 同時に駐車ブレーキを解除しながら、アクセルペダルを踏み込みエンジン回転数を上げながら、駐車ブレーキを完全に解除すると同時にクラッチペダルから足を離して発進します。

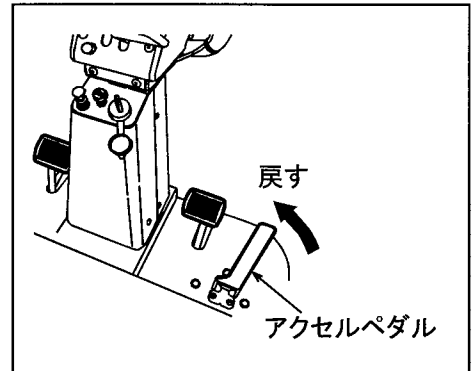


●下り坂での運転

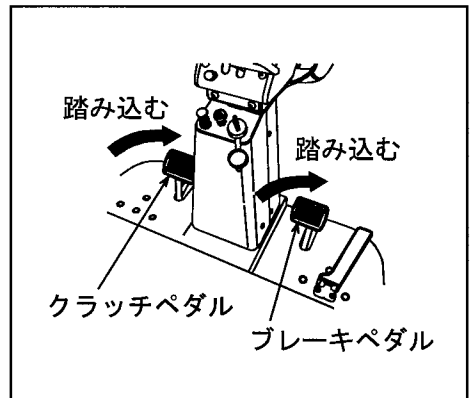
下り坂ではエンジンブレーキを使用してください。ブレーキペダルを踏むだけで下るのは危険です。

■制動および駐車・停車

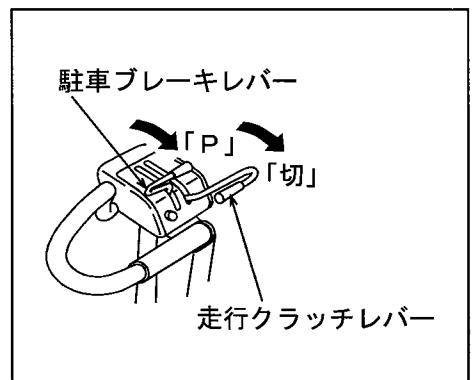
- (1) アクセルペダルを操作し、エンジン回転数を下げます。



- (2) クラッチペダルを踏み込むと同時にブレーキペダルを踏み込みます。



- (3) 車体が完全に停止してから駐車ブレーキをかけ、走行クラッチレバーを「切」位置にします。



警告

- 積荷や路面の状況により制動距離（停止距離）が変わります。ブレーキは早めに踏みましょう。
- 駐車・停止するときは、駐車ブレーキを確実にかけてください。
- 車両から離れる場合は、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ車止めをしてください。止める所は、広い地面の硬い場所を選んでください。車体が自然に動きだしたりして大変危険です。
- 緊急時以外は、できるだけ急ブレーキをかけないでください。車体やギヤーボックスに過大な力がかかり、機械の寿命を短くします。
- 車体を草や可燃物の上に止めてエンジンの空吹かしをしたり、高速回転にしたりすると排気管の熱や排気ガスにより、火災の原因になる恐れがあります。
- 乗車時に制動・停車する場合は、必ずフットブレーキペダルを使用し、駐車ブレーキレバー・走行クラッチレバーは使用しないでください。これを怠ると衝突事故や転倒、転落事故などの重大な事故を引き起こす恐れがあります。

積載要領

■最大作業能力



警告

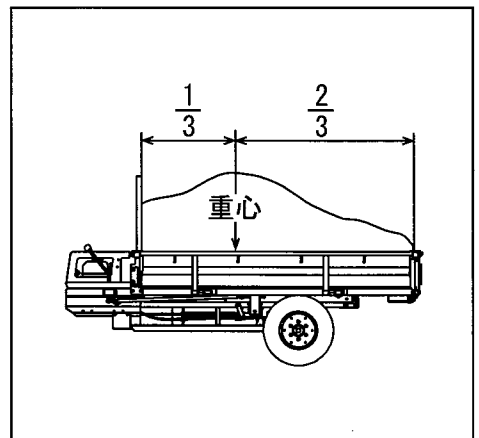
- 最大作業能力を厳守し、積過ぎないで下さい。積過ぎは車体バランスを悪くし、転倒事故の原因となり大変危険です。
- 積過ぎは、タイヤのパンク等の原因となり、ハンドル操作を誤り事故を起こす恐れがあり大変危険です。

最大作業能力は下表の通りです。必ず守って安全に作業を行ってください。

勾 配	最 大 作 業 能 力 (k g)
平 坦 地	600
15° 以下 の 下 り 坂	300
15° 以下 の 上 り 坂	300

■バランス

安全に効率よく作業するため、バランスよく積載してください。積荷の重心は荷台前端から荷台長さの $\frac{1}{3}$ 付近にあるときが最も安定します。



危険

- 荷動きしないようしっかりとロープ等で積荷を固定してください。これを怠ると、車体重心が変わりバランスをくずし転倒事故を起こしたり、積荷が落下したりして大変危険です。
- 荷物を高く積まないでください。重心が高くなり、積荷のバランスが悪くなり落下事故の原因となり大変危険です。

注意

- やむを得ず、積荷が高くなる場合は、荷くずれしないよう確実にロープ等で固定し、ゆっくりと低速で運搬してください。
- 荷物を積んで走行する時には、積載量に応じて、ハンドルの操作荷重が変わります。十分注意して運搬してください。

油圧操作

■ ダンプ操作（各型式のダンプ仕様）

ダンプ操作は、上昇・下降いずれの場合にも、必ずエンジンをかけたままの状態で行ってください。

●操作方法

乗車運転時、前進方向に向かって

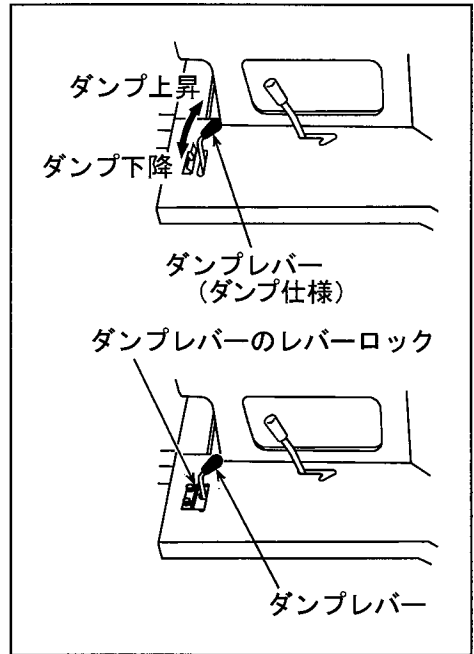
荷台下降…ダンプレバーを左に倒す
（手前に引く）

荷台上昇…ダンプレバーを右に倒す
（外向きに押す）

重要 ●ダンプレバーはいっぱいに操作し、途中で止めて操作しないでください。

●ダンプレバーのロックを外してからレバーを操作してください。また、使用しない場合は必ずレバーロックをしてください。

●20秒以上連続してリリーフ弁を作動（ビーという音がします。）させないでください。油圧ポンプの破損につながります。



⚠️ 注意

●足場の悪い所や傾斜地でのダンプ作業は避けてください。

●周囲の安全を確認し、駐車ブレーキをかけて操作してください。

●ダンプレバーを操作してもリリーフ弁が作動（ビーという音がします。）して荷台がダンプしない場合は、積過ぎですから積荷を減らしてください。

●降下防止をしたまま荷台を下げると破損します。荷台を下降させる前に降下防止をしたままでないか確認してから作業を行ってください。

警告

- 荷台をダンプ状態からエンジンをかけないで下降させると、シリンダ内が真空となり、スムーズな操作ができなくなります。また、オイルが油圧ポンプから噴き出し、オイルの減少の原因となります。
- 積荷が残ったまま、荷台を下降させる場合は、車体に衝突させないようにエンジン回転を落としゆっくりと下げてください。これを怠ると車体の破損の原因となるばかりでなく、思わぬ事故につながり大変危険です。
- 上昇させた荷台の下に身体をもぐり込ませないでください。荷台が下降し、はさまれる恐れがあります。修理・調整等やむを得ない場合は、必ず荷台が下降しないよう降下防止を施してください。
- 走行中のダンプ操作は、油圧装置の破損につながるばかりでなく、ハンドル操作の誤りを引き起こし大変危険です。絶対にしないでください。

点検・整備



警告

●給油および点検をするときは安全を確認して行ってください。

- ①車体を平坦な広い場所に置く。
- ②エンジンを止める。
- ③駐車ブレーキをかける。
- ④荷台をダンプさせたときは降下防止をする。

※ 安全を確認しないで点検・整備を行うと、思わぬ傷害事故を引き起こすことがあります。

<定期点検整備箇所一覧表>

本機を安全に使用するために、また事故を未然に防ぐために必ず点検・整備を行ってください。

○点検・整備 ◎補給 ●交換

区分	点検箇所	項目	点検時期 (目安)				備考	参照ページ
			始業前	50h 毎	100h 毎	300h 毎		
本体部	ギヤーボックス	油量	○			●	初期 50 時間その後 300 時間毎交換	54・55
	フロントデフケース	油質・汚れ	○			●	初期 50 時間その後 300 時間毎交換	55
	クラッチペダル	遊び	○					63
	ブレーキペダル	遊び 効き具合	○					64
	各レバー・ペダル類	作動・機能	○					60～67
	ブレーキシュー	摩耗		○		●		68・69
	タイヤ	空気圧 亀裂	○					68
	V ベルト	伸び・亀裂	○					—
	各スイッチ・ランプ等	作動・点検	○					25・26
	グリースニップル	グリース			○			56
	各支点・摺動部	油・グリース		○			50 時間毎給油	—
	各ボルト・ナット	締付状態	○					—
	バッテリー	液量・接続	○		○		100 時間毎点検	58・59

運転のしかた

○点検・整備 ◎補給 ●交換

区分	点検箇所	項目	点検時期(目安)				備考	参照ページ
			始業前	50h毎	100h毎	300h毎		
本体部	各部ワイヤ	外観・伸び	○				年1回点検	—
	かじ取り装置 ボールジョイント	遊び 締付状態	○	○		○	初期50時間、その後 300時間毎増し締め	—
	燃料	量・燃料色	○				1年毎抜き取り、清掃	—
	燃料フィルタ	汚れ	○		○	●	100時間毎洗浄 300時間毎エレメント交換	53
油圧部	油圧ポンプ	油量・油質	○		◎	●		56
	油圧ホース	油色・亀裂	○					—
	油圧シリンダ	油もれ	○					—
	摺動部	グリス	○					—

エンジン部関係については、「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

重要 ●年に1回はお買い上げいただいた販売店にて点検整備を受けてください。

■給油

<給油箇所一覧表>

給油箇所		油の種類	給油量		参照ページ
本体部	ギヤーボックス	ギヤーオイル(80W-90)	SL50	3.0ℓ	54・55
			SL55	3.2ℓ	
	フロントデフ (SL55の全仕様)	ギヤーオイル(80W-90)	1.1ℓ		55
	グリスニップル	リチウム系一般グリス	適量		56
	注油指示部 (黄色マーカ部)	マシン油またはギヤーオイル	適量		—
油圧部	各支点・摺動部	ギヤーオイルまたはリチウム系一般グリス	適量		—
	油圧ポンプ	ハイドロリックオイル TL ISO32	1.0ℓ (シリンダ・ホース内含む)		56
	各支点・摺動部	ギヤーオイルまたはリチウム系一般グリス	適量		—

エンジンオイルや燃料等については「エンジン取扱説明書」をご参照ください。

重要 ●機械にとって潤滑油は、人の血液にも相当する大切なものです。給油をおろそかにすると機械が円滑に動作しないばかりか、故障の原因となり、機械の寿命を短くします。常に点検し、早めに補給、または交換をしてください。

●給油作業は、ゴミ・水等が入らないよう十分注意して行ってください。

■点検と清掃

⚠危険 ●火気厳禁

給油時は、エンジンを必ず停止してください。

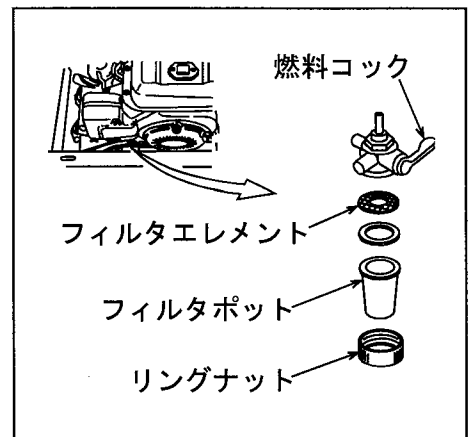
- 燃料を補給するときは、くわえタバコなどの火気は厳禁です。
引火・爆発・火災の原因になります。

(1) 燃料…………自動車用無鉛レギュラーガソリン

- 燃料タンク内に水・ゴミ等が入らないよう注意してください。
- 燃料キャップが確実に締まっているか確認してください。

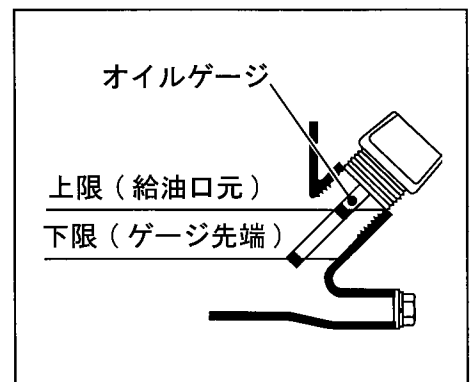
(2) フィルタポットの清掃と交換

- 燃料中に含まれる水・ゴミ等がフィルタポット内に沈殿していないか点検します。
- 水・ゴミ等がたまっている場合は、フィルタポットを外し、フィルタエレメントおよびフィルタポット内部をガソリンで洗浄してください。
- 締付けの際は、燃料もれのないよう十分に注意してください。



(3) エンジンオイル

- 機体を水平にして、オイルゲージを抜いて先端をきれいにふき、改めて差し込んでから再び抜き「上限と下限の間」にオイルがあるか調べます。
- 「下限」以下の場合は、「上限」まで補給してください。

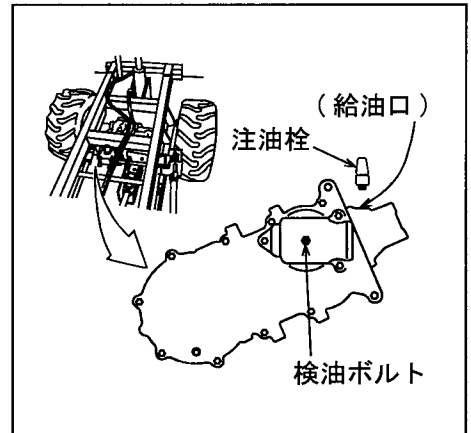


重要 ●エンジンオイルは「上限」以上に入れないでください。

※オイル交換・エアクリーナの清掃等エンジンの保守点検につきましては、別冊で添付しております「エンジン取扱説明書」をお読みください。

(1) ギヤーボックスへの給油

機体を水平な場所へ移動します。荷台を上げ、給油口の注油栓を外し、ギヤーボックス側面の検油穴のボルトを抜き、検油穴からオイルが出てくるか調べ、出ない場合は、検油穴からオイルが出てくるまで、給油口からオイルを補給してください。



●荷台ダンプ仕様以外……荷台固定ボルトを外し、荷台を上げる。

●荷台ダンプ仕様……………荷台をダンプさせる。

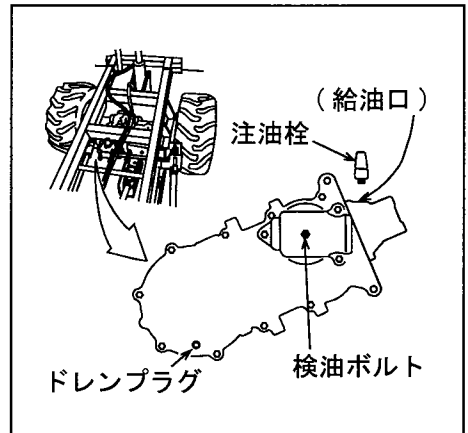
(31・32ページ参照)

※油の種類・量は52ページ参照

重要 ●ギヤーボックスのオイルは、路面状態など走行条件により給油口よりにじみ出たり注油栓のエア抜き穴から出る場合がありますので頻繁に点検し、補給してください。

(5) ギヤーボックスのオイル交換

- ギヤーボックス下部のドレンプラグを外し、廃油を廃油受皿に排出します。
- オイルが出なくなったらドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。
- 検油穴の検油ボルトを外し、検油穴よりオイルが出るまで給油します。
- 検油穴のボルトを元のように差し込んでください。

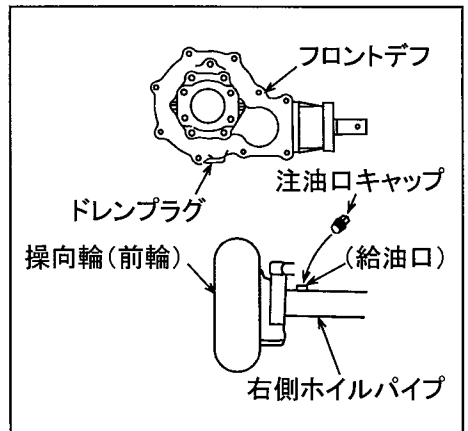


※油の種類・量は 52 ページ参照

- 重要** ●廃油は廃油受皿等に取り、たれ流したりしないでください。公害のもとになります。
- 廃油受皿に排出したオイル内に鉄粉等が混入している場合は、ギヤーの摩耗などミッション破損の前兆であり、ギヤーボックスの分解チェックを要します。お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

(6) フロントデフのオイル交換 (SL55 の全仕様)

- フロントデフケース下部のドレンプラグを外し、廃油を廃油受皿に排出します。
- オイルが出なくなったらドレンプラグにシールテープを巻き、元のようにしっかりと締め込みます。
- 右前輪内側のホイールパイプ上部にある注油口プラグを外し給油口よりギヤーオイルを 1. 1ℓ 給油してください。
- 給油後は注油口プラグを元のように差し込んでください。



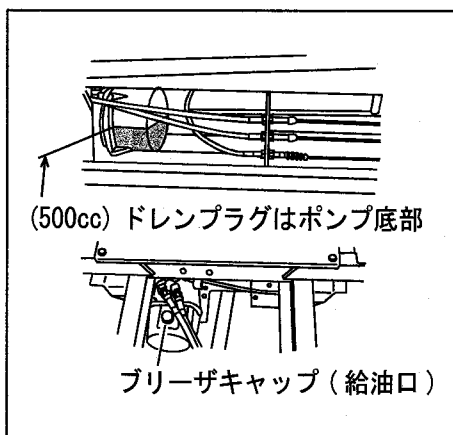
※油の種類・量は 52 ページ

(7) 油圧ポンプへの給油

(各型式のダンプ仕様)

- 荷台を降ろした状態で、作動油がタンクの半分（500cc）よりやや多めに入っているか点検します。
- 作動油が少ない場合は給油口より補給してください。
- 52ページの給油量（1.0ℓ）は、シリンダやホース内のオイルも含んでいますので、オイル交換の際は、タンクの半分よりやや多めを目安にオイル交換を行ってください。

※油の種類・量は52ページ



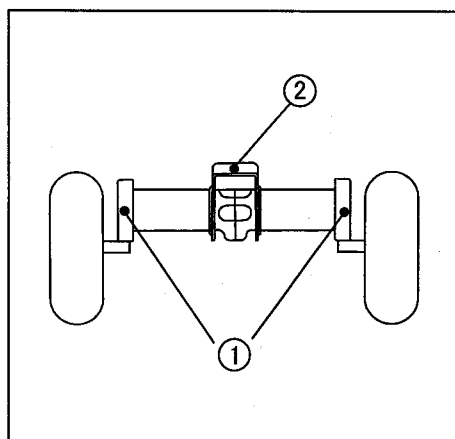
重要

- 荷台をダンプさせた時と降ろした時では、シリンダ内の油量が異なります。油量は必ず荷台を降ろした状態で点検してください。
- 油量が多いとブリーザキャップのエア抜き穴より、オイルが吹き出る場合があります。
- 作動油の早期減少は異常ですから、お買い上げいただいた販売店で点検整備を受けてください。

(8) グリースニップルへのグリース注入

市販のグリースガンにて、下記注油箇所
にグリースを注入してください。

- SL50 ①, ②
- SL55 ②



電気系統の点検と清掃

■電気配線の点検と清掃



警告

●配線の端子や接続部の緩みおよび配線の損傷は、電気部品の性能を損なうだけでなく、ショート（短絡）・漏電の原因となり、火災事故になる恐れがあり大変危険です。傷んだ配線は、早めに交換・修理をしてください。

●バッテリー、電気配線およびマフラやエンジン周辺部の可燃物・ゴミなどは取除いてください。これを怠ると火災の原因となります。

●安心して運転できるよう、1年に1回は販売店での定期点検を受けてください。

下記の項目につき、定期的に点検してください。

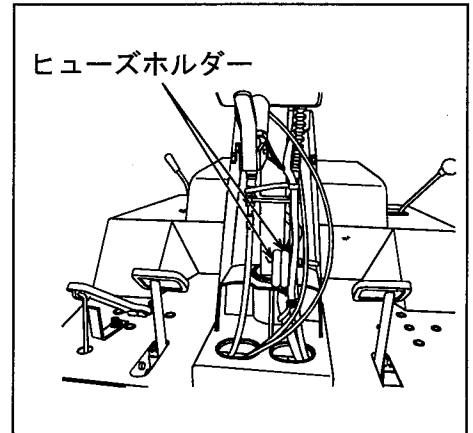
- (1) 配線の損傷がないこと。配線被覆が破れているときは、ビニールテープを巻き、補修してください。
- (2) 配線のクランプの緩みがないこと。配線がクランプより外れているときは、所定のクランプに配線をセットしてください。
- (3) ターミナル、カプラの接続部の緩みがないこと。
- (4) 各スイッチが確実に作動すること。

重要

●バッテリー、エンジンのまわりの電気配線、電装部品等に圧力水をかけないでください。電気部品の故障の原因となります。

■ヒューズの取扱い

ヒューズは、ヒューズホルダーの中に入っています。ヒューズが切れた場合は、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。大容量のヒューズをつけると焼損の原因となります。



重要 ●ヒューズが切れた場合は、切れた原因を調べ、修理後同容量のヒューズと交換してください。絶対に針金等で代用しないでください。

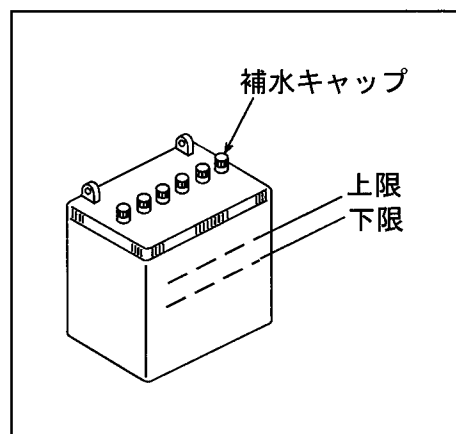
■バッテリーの点検と取扱い

警告

- ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。また、充電は風通しのよい所で行ってください。これを怠ると引火爆発することがあり大変危険です。
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用を続けたり充電を行うと、容器内各部位の劣化の進行が促進され、バッテリーの寿命を縮めたり、破裂（爆発）の原因となる恐れがあります。
- バッテリー液（電解液）は希硫酸で劇物です。バッテリー液を体や服につけないようにしてください。失明ややけどをすることがあり大変危険です。もし、目・皮膚・服についたときは、直ちに多量の水で洗ってください。なお、目に入ったときは、水洗い後、医師の治療を受けてください。
- ブースターケーブル使用時には、危険のないように取扱ってください。

(1) バッテリーの液量点検

- バッテリー液がバッテリーケース液面レベルの上限線から下限線の間にあるか、バッテリーが水平になる姿勢で確認してください。
- 不足している場所はキャップを外し、上限まで蒸留水を補充してください。



(2) バッテリーの取扱い

- 気温が低下すると、バッテリーの性能も低下します。冬季は特にバッテリーの管理に注意してください。
- バッテリーは使用しなくても自己放電しますから補充電を行ってください。
夏季…………… 1 カ月毎 冬季…………… 2 カ月毎
- 本機を長期格納する場合は、バッテリーを取り外し、日光のあたらない乾燥した場所に保管してください。どうしても本機に取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側 (⊖側) を外してください。
- 新品のバッテリーと交換する場合は、必ず指定した型式のバッテリーを使用してください。
指定バッテリー型式…………… 3 4 A 1 9 R

重要

- バッテリーは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線等を傷めることがあります。
- バッテリーの急速充電はバッテリーの寿命を短くしますから、できるだけ避けてください。
- 充電はバッテリーの⊕を充電器の⊕に、⊖を充電器の⊖にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。
- バッテリーを外し、再度取付けるときは、バッテリーの⊕・⊖のコードを元通りに配線し、まわりに接触しないように締付けてください。
- バッテリーコード (端子) を取外すときは、⊖コードを先に外します。バッテリーコードを取付けるときは、⊕コードを先に取付けます。これを怠るとショートして火花が飛んだりして危険です。

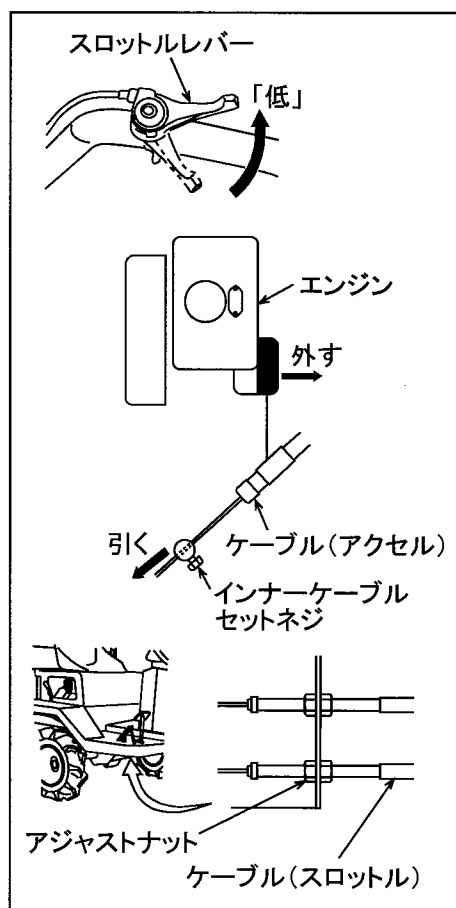
各部の調整

- ⚠警告** ●各部の点検・調整を行う場合は、必ずエンジンを停止させ、平坦地で作業してください。
- 荷台下部の点検・調整を行う場合は、必ず下降防止をしてください。

■スロットルレバーとアクセルペダルの調整

ワイヤの伸び等で、スロットルレバーおよびアクセルペダルの動きにエンジン回転数が追従しなくなった場合は、ワイヤのアジャストナット等にて調整を行ってください。

- (1) スロットルレバーを「低」位置にします。
- (2) エンジン側のケーブル（アクセル）のインナーケーブルセットネジを緩め、インナーケーブルをプライヤー等で引っ張り、遊びを無くします。
- (3) エンジンの速度調節レバーが低速側ストッパーで止まった位置でインナーケーブルセットネジを締め付けます。
- (4) アクセルペダルを手で押さえ、エンジンの速度調節レバーが高速側ストッパーにあたった位置でアクセルペダルが止まるようにストッパボルトを調節します。
- (5) ケーブル（スロットル）のたわみがなくなるよう、アジャストナットにて調整してください。



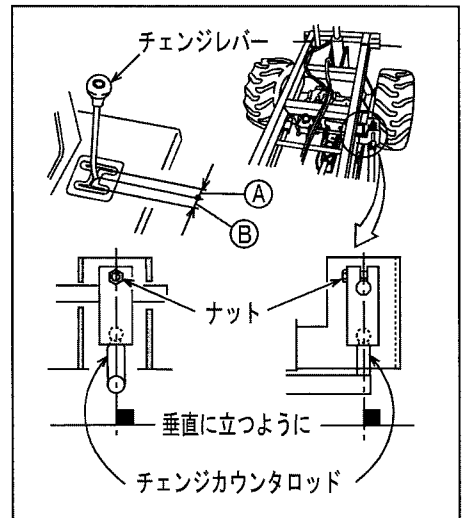
※スロットルレバーのみの調整は、(1)、(5) 手順のみで行ってください。

- 重要**
- アクセルペダルは必ずストップボルトにて踏み込み量を制限してください。これを怠ると、エンジンの速度調節レバーの変形、インナーケーブルの抜け等が発生し、故障の原因となります。
 - 調整後は、スロットルレバーおよびアクセルペダルの動きにエンジン回転数が追従することを確認してください。

■ チェンジレバーの調整

チェンジレバーが各変速位置に入らない場合は、下記要領で調整してください。

- (1) チェンジレバーの位置を右図のように「N」の中央位置にします。(A=Bとなるように)
- (2) この位置でナットを緩め、チェンジカウンタロッドが機体に対して垂直に立つよう調整してください。



- 重要**
- チェンジレバーは、使用していると各部のへたりや締込部のズレ等によりチェンジガイドとのズレ等を生じます。これを放っておくと変速ミス、ギヤー抜け、さらにはギヤーボックスの破損につながります。正しく調整してください。
 - ブレーキがかかった状態のとき、チェンジギヤーの歯の噛み合いによりスムーズに変速できないことがあります。無理に変速しようとする、チェンジ機構等を破損する恐れがあります。チェンジ操作がスムーズに行えない場合は、走行クラッチレバーを少しだけ「入」の状態にし、すぐ「切」位置に戻し、再度チェンジレバーを操作してください。

■ 走行クラッチレバーの調整



警告

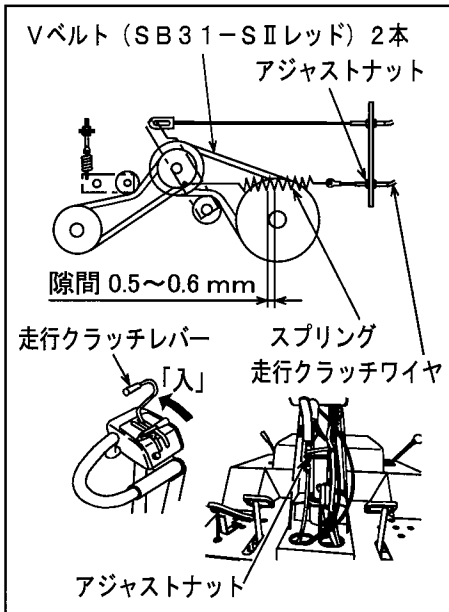
- 点検・調整はエンジンを止めて行ってください。これを怠ると、衣服の巻き込みなどによる傷害事故の原因となります。
- エンジン停止後すぐに点検・調整を行うと、マフラーなどの高温部による火傷の原因となります。高温部が冷えてから行ってください。

走行クラッチは、ベルトテンション式のクラッチです。ベルトがスリップして動力の伝達が十分でない場合は、ワイヤのアジャストナットにて調整してください。

- 走行クラッチレバーを「入」位置に入れた時、テンションスプリングの隙間が 0.5～0.6mm になるようアジャストナットにて調整してください。

重要

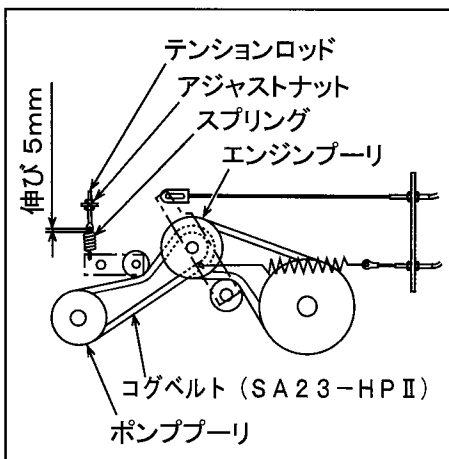
- 走行クラッチレバーの調整が悪いと、ベルトのツキ回りやスリップ等が起き、ベルトの早期摩耗・異音原因となります。



■ 油圧駆動ベルトの張り調整（ダンプ仕様）

駆動ベルトは、常時張りのベルトです。長期間の使用によるベルトの磨耗・伸び等により、ベルトの張りが緩くなりダンプレバーを操作しても荷台がダンプしない場合は、スプリングの伸びが 5 mm になるようにテンションロッドのアジャストナットで調節してください。調節代が無い場合は、ベルトの交換が必要です。

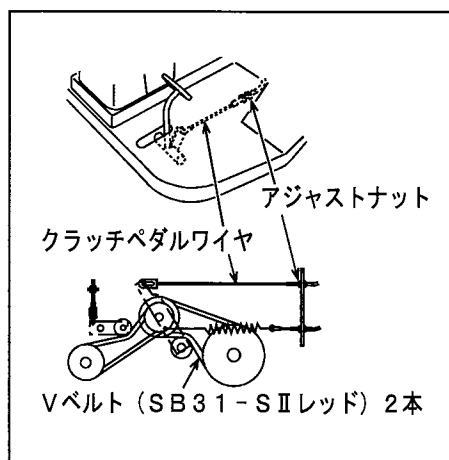
調整のため外したカバー類は、必ず元のように組付けてください。



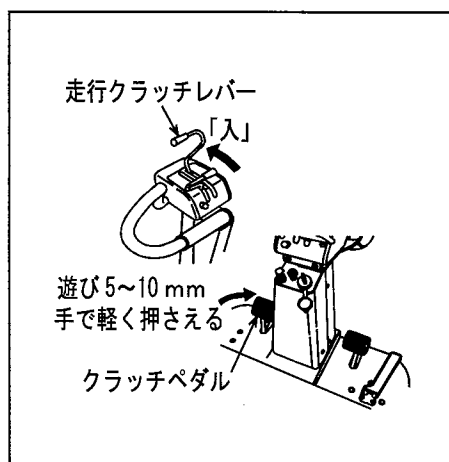
■クラッチペダルの調整

⚠警告 ●クラッチの調整が悪いと、クラッチ切れ不良やスリップを起こす等思わぬ事故につながり大変危険です。

クラッチペダルを操作してもクラッチが切れない、またはすべる場合には、ワイヤのアジャストナットにて調整を行ってください。



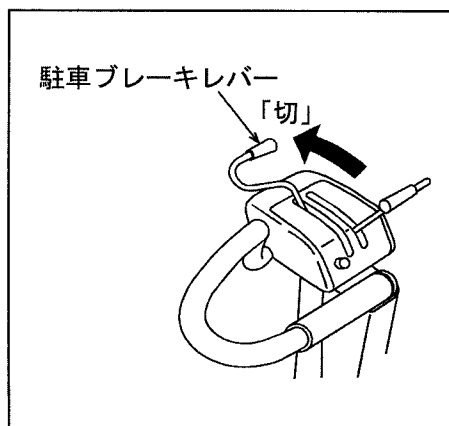
●走行クラッチレバーを「入」位置に入れた時、クラッチペダルの遊び量が5～10mm程度になるよう、アジャストナットにて調整してください。



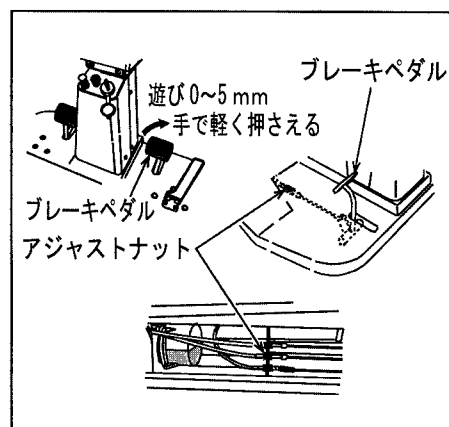
■ブレーキペダルの調整

警告 ●ブレーキ調整を行う際は、駐車ブレーキが解除の状態になりますので、水平な場所で車止めを施して行ってください。これを怠ると、車体が自然に動き出し、思わぬ事故が起き大変危険です。

- (1) 駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。
- (2) ブレーキペダルを軽く手で押さえ、ペダル先端の遊び量が0～5mmになるよう、ワイヤのアジャストナットにて調整してください。



重要 ●ペダルの遊び量が大きくなるとブレーキの効き具合が悪くなるばかりか、半ブレーキ状態となりブレーキシューの早期摩耗の原因となります。



■ 駐車ブレーキレバーの調整

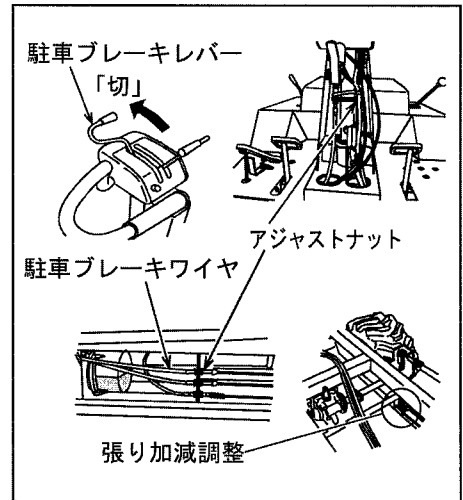


警告

● 駐車ブレーキレバーの調整は、必ずブレーキペダルの調整をしてから行ってください。これを怠ると、ブレーキペダルを踏んでもブレーキが効かないで、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

- (1) 駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。
- (2) 駐車ブレーキワイヤの張り加減が、先に調整したブレーキペダルワイヤの張り加減と同じになるよう、アジャストナットにて調整してください。

重要 ● ブレーキペダル、駐車ブレーキレバー等ブレーキの調整を行った後には、必ず駐車ブレーキを解除して、変速レバー「N」走行クラッチレバー「切」の状態で、車体を押して動くことを確認してください。



■左右のブレーキロッドの調整

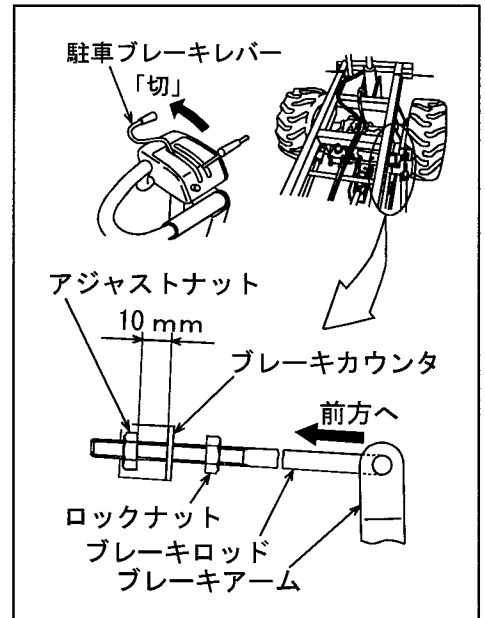


警告 ●ホイルブレーキは左右の後輪それぞれに設けられています。ブレーキロッドの調整は左右同時に行ってください。これを怠ると、ブレーキが片効きになり、傷害事故を引き起こす恐れがあります。

ブレーキシューの摩耗により、ブレーキペダルの調整を行ってもブレーキの効きが悪くなった場合は、この調整が必要です。

- (1) 駐車ブレーキレバーを「切」位置にしてください。
- (2) ロックナットを大きく緩め、ブレーキアームを前方へ押し倒してください。
- (3) ブレーキカウンタとアジャストナットの間隔が10 mmになるよう、アジャストナットを調整してください。
- (4) 手を離し、ロックナットだけを回し確実に締め付けてください。
- (5) 反対側も同様に行い、駐車ブレーキレバーを「P」位置にして、ブレーキの効きを確認してください。

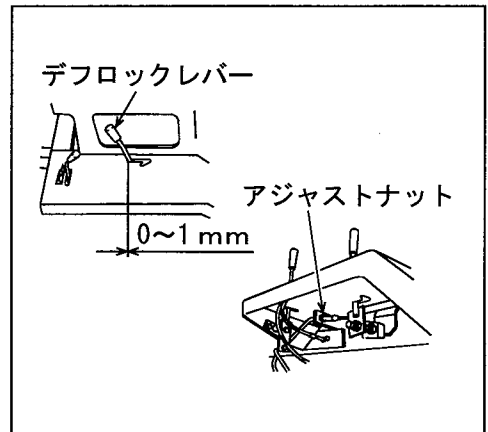
重要 ●ブレーキロッドによる調整ができなくなった場合は、ブレーキシューの交換を要します。お買い上げいただいた販売店へご連絡ください。



■デフロックレバーの調整（SL50の全仕様）

ワイヤの伸び等で、デフロックの切換え不良となった場合は、ワイヤのアジャストナットにて調整を行ってください。

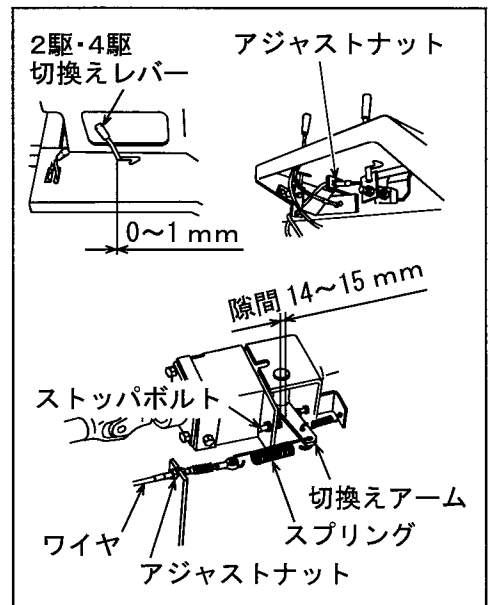
- デフロックレバーが「切」位置のとき、レバーの遊びが0～1 mmの間になるようにアジャストナットにて調整してください。



■2 駆・4 駆切換えレバーの調整（SL55の全仕様）

ワイヤの伸び等で、2 駆・4 駆の切換え不良となった場合は、ワイヤのアジャストナットにて調整を行ってください。

- (1) 切換えレバーが「2 駆」の位置のとき、レバーの遊びが0～1 mmの間になるようにアジャストナットにて調整してください。
- (2) 切換えレバーが「2 駆」の位置で、切換えアームが2 駆状態の時、切換えアームとストッパボルトの最短距離が14～15 mmになるようにストッパボルトを調整してください。



※ストッパボルトは、本機出荷時に調整済みです。

■タイヤ空気圧

安全と性能を確保するため、タイヤ空気圧を適正に保つことは、非常に大切です。使用前には、必ず点検してください。

●標準空気圧

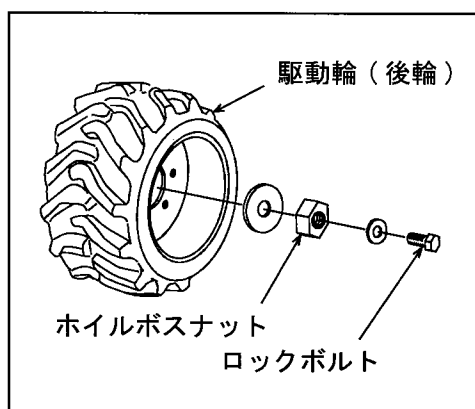
	S L 5 0		S L 5 5	
	タイヤサイズ	空気圧(kPa) [kgf/cm ²]	タイヤサイズ	空気圧(kPa) [kgf/cm ²]
前輪	AG400-8-4PR	(240)[2.4]	AG400-8-4PR	(240)[2.4]
後輪	AG19X8.00-10-4PR	(240)[2.4]	AG19X8.00-10-4PR	(240)[2.4]

■ブレーキシューの交換

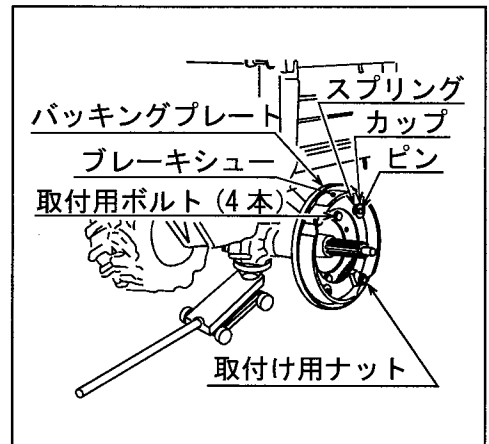
⚠警告 ●ホイルブレーキのバックングプレートを交換するときは、軸心合わせが必要です。これを怠ると、ブレーキシューの早期摩耗・ブレーキ性能不良などによる傷害事故を引き起こす恐れがあります。

ブレーキシューは消耗品です。ブレーキを頻繁にかけると摩耗します。調整（64～66ページ参照）ができなくなったら交換してください。

- (1) ジャッキを使用して、交換する側のタイヤを10～20mm浮かせます。
- (2) ロックボルトおよびホイルボスナットを緩めタイヤを外します。



- (3) ブレーキシューのズレ止め用ピンをカップを押さえながら90°回転させて、カップとスプリングを外します。(2カ所)
- (4) ブレーキシュー取付用ナット(2カ所)を緩め摩耗したブレーキシューを外します。
- (5) 取外した逆の手順で新しいブレーキシューおよびタイヤを組付けます。
- (6) ホイルボスナットおよびロックボルトを確実に締め込みます。
- (7) ブレーキシュー交換後は、64～66ページのブレーキ関係の調整を行ってください。



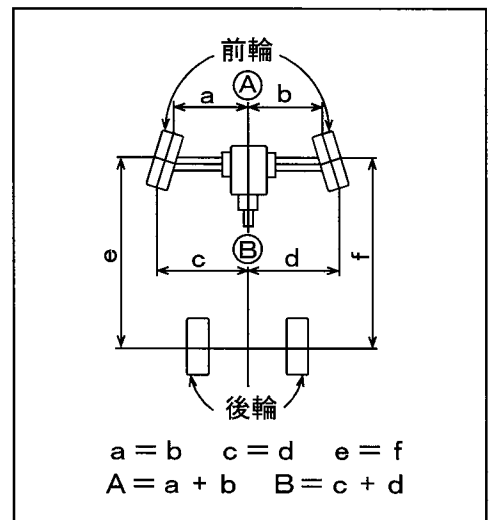
- 重要**
- ブレーキシューが摩耗しすぎると、ホイルボスを傷つけることがあります。交換時にはホイルボスの点検をし、損傷があれば同時に交換してください。
 - パッキングプレート取付用ボルトは、絶対に緩めないでください。緩めると軸心が変わり、ブレーキシューの摩耗原因となるばかりでなく、ブレーキが効かなくなる恐れがあります。
 - ブレーキシューは、左右同時に交換することをお勧めします。片側だけ交換すると、ブレーキシューの摩耗が早くなります。

■ トーインの調整

トーインの調整が悪いと、タイヤが偏摩耗するばかりでなく、ハンドルを取られたり、直進性が悪くなったりします。調整はお買い上げいただいた販売店で行ってください。

[トーインの点検方法]

- 車体を真っ直ぐにしたとき前輪の前幅(A)と後輪幅(B)を計測し、 $B - A = 0 \sim 6 \text{ mm}$ になっているかを調べます。

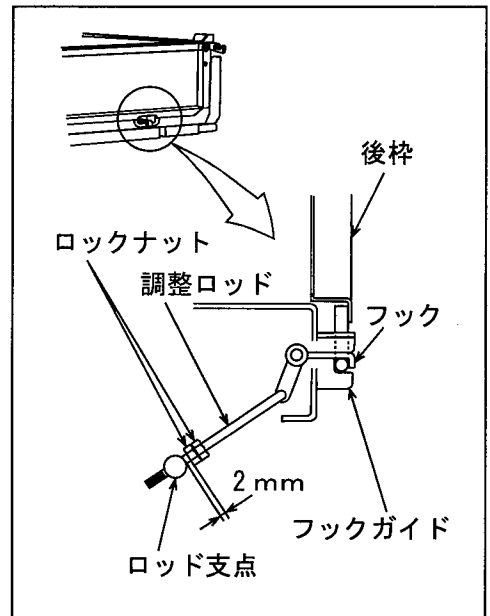


■後枠開閉フックの調整（各型式のダンプ仕様）

荷台を30°程度ダンプさせると、後枠がフックから外れ、荷台を下まで降ろすと、後枠がフックで固定されます。

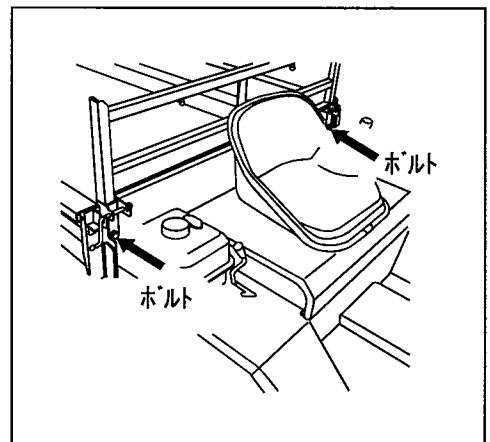
- (1) 荷台を下まで降ろし、ロッド支点と調整ロッドのロックナットとの隙間を2mmに調整します。
- (2) 荷台を上下させ、フックがフックガイド等に干渉しないことを確認します。

重要 ●調整が悪いと後枠が開かなかったり、振動し異音が起こることがあります。また、フックがフックガイド等に干渉し、フックや調整ロッドの変形につながります。



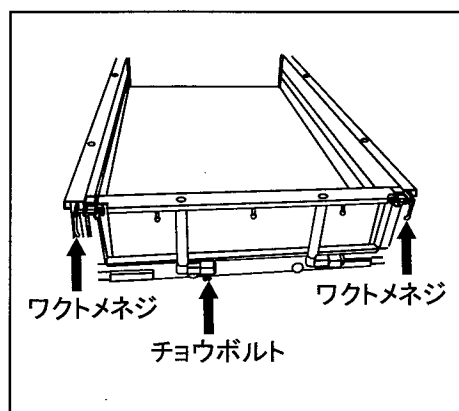
■前枠アーチ高さ調整方法

ボルト2ヶ所を緩めて、前枠アーチの高さを2段階に調整することができます。調整後は、ボルトを締めて前枠アーチをしっかりと固定してください。

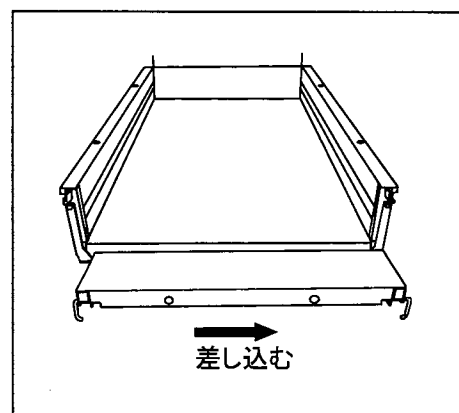


■ウシロワク水平（ダンプ仕様以外）

- (1) ワクトメネジ2か所を外し、チョウボルトを緩めてウシロワクが倒れるようにします。

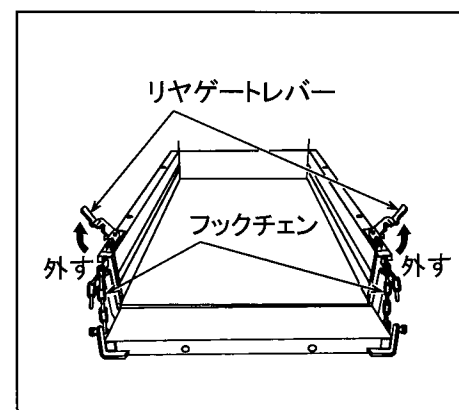


- (2) ウシロワクを水平付近まで倒し、ウシロワク支点の六角部を荷台側六角穴に奥まで差し込んで、チョウボルトでズレないように、しっかりと固定します。



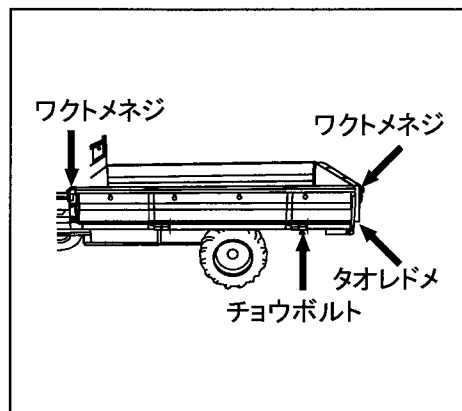
■ウシロワク水平（ダンプ仕様）

左右のリヤゲートレバーを外しウシロワクを水平位置まで倒し、ウシロワクに取付けているフックチェーンをヨコワクのフックに引っ掛け保持します。

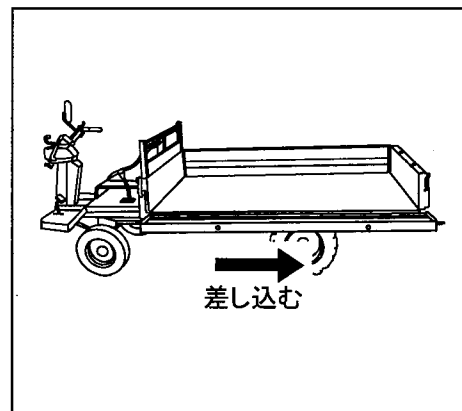


■ワク三方向水平（ダンプ仕様以外）

- (1) 前後のワクトメネジおよびタオレドメを外し
チョウボルトを緩めて、ヨコワクが倒れるよう
にします。

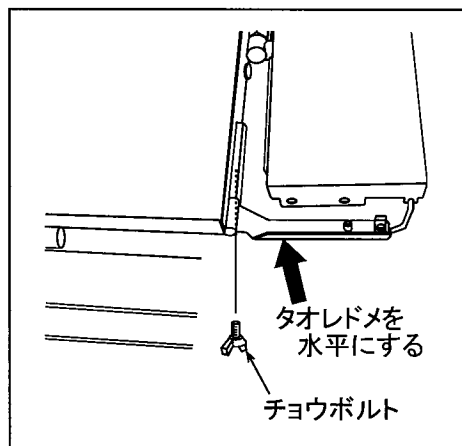


- (2) ヨコワクを水平付近まで倒し、ヨコワク支点
の六角部を荷台側六角穴に奥まで差し込んで、
チョウボルトでズレ無いように、しっかりと固定し
ます。



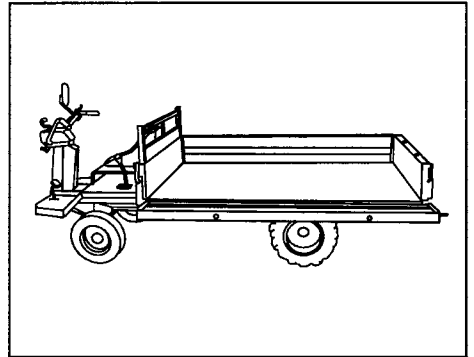
- (3) 71 ページのウシロワク水平（ダンプ仕様以外）
の項を参照し、ウシロワクを水平にします。

- (4) タオレドメが外れないように、タオレドメを水平位
置にチョウボルトでしっかりと固定します。

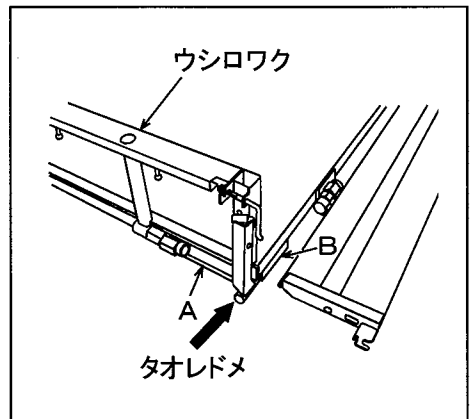


■ヨコワク水平

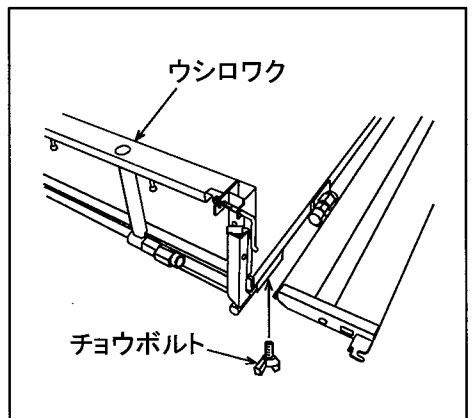
- (1) 72 ページのワク三方向水平の項を参照し
ヨコワクを水平にします。



- (2) ヨコワクを水平にし、ウシロワクをそのままの状態に保持する場合は、左右のタオレドメを交換し、ウシロワクが倒れないようにタオレドメで保持してください。タオレドメセット位置がヨコワク保持時とウシロワク保持時で異なります。ヨコワク保持時はA、ウシロワク保持時はBの箇所へタオレドメを挿入しセットしてください。



- (3) タオレドメが外れないように、チョウボルトでしっかりと固定してください。



重要

- ヨコワク・ウシロワクを水平保持した状態では、重量物をヨコワクだけウシロワクだけに乗せないで必ず荷物の重心が荷台側になるように乗せてください。荷物の重心が枠側になっていると、走行中の振動等で破損する場合があります。

手入れと格納



警告

●作業が終了して、シートカバー等を機械にかけるときは、過熱部分が完全に冷えてから行ってください。熱いうちにカバー類をかけると、火災の原因になり大変危険です。

■日常の格納

日常の格納および短期間の格納は、次の要領で行ってください。

- (1) 車体はきれいに清掃しておきましょう。特に圃場での作業、悪路走行後は、きれいに洗車してください。
- (2) 燃料タンク内の防錆のため、燃料は満タンにしておいてください。
- (3) 荷台は必ず降ろしてください。(ダンプ仕様)
- (4) 格納はできる限り屋内にしてください。
- (5) 駐車ブレーキを必ずかけてください。
- (6) 厳寒時はバッテリーをはずし、暖かい室内などに保管すると始動時に効果があります。

重要

●洗車の際は、エンジン・樹脂部品・電装品、およびマーク貼付部などには高圧水をかけないでください。高圧水をかけると、故障の原因となったりマークのはがれ、部品の変形を起こしたりします。

●漏電の原因になるため、キースイッチのキーは抜き、キャップをしてください。(セル仕様)

■長期格納

長い間使用しない場合は、きれいに清掃し、次の要領で格納してください。

- (1) 車体はきれいに清掃しておきましょう。
- (2) 不具合箇所は整備してください。
- (3) エンジンオイルを新しいオイルと交換し、5分程エンジンをアイドリング回転にて運転し、各部にオイルをゆきわたらせます。
- (4) 各部の給油を必ず行ってください。
- (5) 荷台は必ず降ろしてください。(ダンプ仕様)

- (6) 各部のボルト・ナットの緩みを点検し、緩んでいれば締めてください。
- (7) 格納場所は、周囲に紙など燃えやすいものがない、雨のかからない乾燥した場所を選んでください。
- (8) 走行クラッチは「切」にし、駐車ブレーキはかけないで後輪に車止めをしておいてください。
- (9) エンジン部は、燃料タンク・気化器内のガソリンを完全に抜いて格納してください。※「エンジン取扱説明書」参照
- (10) バッテリーは、はずして補充電を行い、液面を正しく調整して日光の当たらない乾燥した場所に保管してください。どうしても取付けたまま保管しなければならないときは、必ずアース側（⊖側）をはずしておいてください。

重要 ● バッテリーをはずさないときは、最低限バッテリーの⊖端子をはずしてください。ねずみが配線をかじり、ショートして火災が発生することがあります。

● キースイッチのキーは必ず抜いておいてください。（セル仕様）

■ 長期格納後の使用

長期格納後の再使用は、特に次の内容に注意してください。

- 重要** ● 始業点検を確実に行ってください。
- エンジンの寿命・性能を保つため、エンジン始動後はアイドリング回転で10分程運転してください。

不調時の対応のしかた

■エンジン関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
キースイッチを回してもセルモータが回らない (セル仕様)	●バッテリーが弱い	●バッテリーの充電または交換	58・59
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	58
	●キースイッチの故障	●キースイッチの交換	※
	●セルモータの故障	●修理または交換	※
	●リミットスイッチの作動不良または故障	●リミットスイッチの調整または交換	※
	●走行クラッチレバーが入っている	●走行クラッチレバーを切る	28
セルモータの回転があがらない (セル仕様)	●バッテリーが弱い	●バッテリーの充電または交換	58・59
セルモータは回すがエンジンがかからない (セル仕様)	●チョークレバーを操作していない	●チョークレバーを引く	37
	●燃料が供給されない	●燃料コックを開ける	36
	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの清掃または交換	53
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまり	●気化器の清掃または交換	※
	●エンジン本体の不具合	●エンジンを修理または交換	※
エンジンの始動が困難である (リコイルスタート仕様)	●走行クラッチレバーが入っている	●走行クラッチレバーを切る	28
	●ストップスイッチが「OFF」になっている	●ストップスイッチを「ON」にする	25

不調時の対応のしかた

故障状況	原因	処置	参照ページ
エンジンの始動が困難である (リコイルスタータ仕様)	●チョークレバーを操作していない	●チョークレバーを引く	37
	●エンジン本体の不具合	●エンジンを修理または交換	※
エンジン回転が不規則である	●燃料フィルタのつまり	●フィルタの清掃または交換	53
	●ホース系の燃料もれまたはエア混入	●クランプの締付け調整またはホース交換	※
	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまり	●気化器の清掃または交換	※
エンジンを低速にすると停止する	●点火プラグの不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●気化器のつまりおよび調整不良	●気化器の清掃または交換	※
	●スロットル調整不良	●スロットルの調整	エンジン取説 60
運転中に突然、エンジンが停止した	●燃料不足	●燃料補給	エンジン取説 53
	●エンジンオイル不足	●エンジンオイルの補給	エンジン取説 53・54
	●オイル不足または潤滑不良によるエンジン焼付	●エンジンの修理または交換	※
	●プラグキャップの緩み	●プラグキャップを正しく取付ける	エンジン取説
マフラから異常な煙がでる	●エアクリーナが目詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量が多い	●点検し適正量にする	エンジン取説 53・54
	●燃料供給量不良	●気化器の調整	※
	●燃料がよくない	●正規の燃料に入れ換える	エンジン取説 53

不調時の対応のしかた

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
エンジン出力不足	●積載量が多すぎる	●積載量を減らす	7・47
	●気化器の調整不良	●気化器の調整	※
	●点火プラグ不良	●点火プラグの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイル量の不適	●エンジンオイル量を点検し適正量にする	エンジン取説 53・54
	●エアクリーナが目詰まり	●エレメントの清掃または交換	エンジン取説
	●エンジンオイルが汚れている	●エンジンオイルの交換	エンジン取説
	●タンクキャップの空気穴の詰まり	●空気穴の清掃	エンジン取説
	●エンジン本体の不具合	●エンジンの修理または交換	※
	●エンジンの過熱	●小休止	—
		●吸気部の清掃	エンジン取説

■クラッチ関係

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
クラッチがすべる	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーおよびクラッチペダルの調整	62・63
	●走行クラッチレバーの調整不良	●走行クラッチレバーの調整	62
	●クラッチペダルの調整不良	●クラッチペダルの調整	63
	●走行ベルトの摩耗	●走行ベルトの交換	※
クラッチが切れない	●走行クラッチレバーの調整不良	●走行クラッチレバーの調整	62
	●クラッチペダルの調整不良	●クラッチペダルの調整	63
	●クラッチワイヤの損傷	●クラッチワイヤの交換	※

不調時の対応のしかた

■ブレーキ関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
ブレーキの効きが悪いまたは片効きである	●ブレーキペダルの遊びが大きすぎる	●ブレーキペダルの遊び量を調整する	64
	●左右ブレーキロッドの不良	●左右ブレーキロッドの調整	66
	●ブレーキシューの摩耗	●ブレーキシューの交換	68・※
ブレーキペダルの戻りが悪い	●ブレーキ戻しスプリングの破損	●ブレーキ戻しスプリングの交換	※
	●各摺動部のグリス切れ	●錆び落としおよびグリス・アップ	—
駐車ブレーキの効きが悪い	●駐車ブレーキレバーの調整不良	●駐車ブレーキレバーの調整	65

■アクセル・スロットル関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
アクセルペダルが戻らない	●スロットルレバーが「高」位置にある	●スロットルレバーを「低」位置にする	27
	●リターンスプリングの破損	●リターンスプリングの交換	※

■チェンジ・伝動関係

故障状況	原因	処置	参照ページ
チェンジレバーが各変速位置に入らない	●チェンジレバーがズレている	●チェンジレバーの調整	61
	●チェンジレバーの変形	●チェンジレバーの交換	※
走行クラッチレバーを「入」にしても走らない	●走行ベルトのスリップ	●走行クラッチレバーの調整	62
	●走行ベルトの摩耗	●走行ベルトの交換	※
	●駐車ブレーキのロック	●駐車ブレーキの解除または調整	29
走行クラッチレバーを「切」にしても停止しない	●走行ベルトのつき回り	●走行クラッチレバーの調整	62
		●ベルトストッパの調整	※

不調時の対応のしかた

■ 操行関係

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
ハンドルが重い ハンドルがとられる	●トーインが正しくない	●トーインの調整	6 9
	●左右のタイヤ空気圧が不揃い	●左右共に規定空気圧にする	6 8
	●各タイヤロッドにガタがある	●増し締めまたは修理・交換	※
	●タイヤがパンクまたは摩耗している	●タイヤの交換	※

■ 油圧関係（ダンブ仕様）

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
ダンプレバーを操作しても動かない	●油圧駆動ベルトのスリップ	●ベルトの張り調整または交換	※
	●荷物の積み過ぎ	●積載量を減らす	7・47
能力がでない	●作動油の減少・質の低下	●作動油の補給または交換	5 6
	●シリンダ内にエア混入	●エア抜き	※
油もれがする	●配管結合部の緩み	●増し締め	—
	●シールの劣化・摩耗	●シールの交換	※
	●油圧ホース亀裂	●油圧ホースの交換	※

不調時の対応のしかた

■電装関係

故 障 状 況	原 因	処 置	参照ページ
バッテリーが充電されない	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	5 8
	●レギュレータ不良	●レギュレータの交換	※
	●エンジン発電不良	●エンジンの修理	※
	●バッテリーの機能不良	●端子の緩み、腐食、電解液の不足などを修正またはバッテリーの交換	—
ランプが暗い	●バッテリーの性能低下	●バッテリーの充電または交換	5 8 ・ 5 9
	●エンジン発電不良	●エンジンの修理	※
ランプが点灯しない	●電球切れ	●電球の交換	—
	●ヒューズ切れ	●ヒューズの交換	5 8
	●端子の接触不良	●端子およびコネクタの点検清掃	—
ホーンが鳴らない	●ホーンボタンの故障	●ホーンボタンの交換	※
	●配線の断線または接続不良	●配線の修理または交換	※
	●ホーンの損傷	●ホーンの交換	※
ウインカが点滅しない（注文部品）	●電球切れ	●電球の交換	—
	●フラッシュ・ユニットの故障	●フラッシュ・ユニットの交換	※
	●端子の接触不良	●端子およびコネクタの点検清掃	—

重要 ●参照ページの欄に※マークがある項目については、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

農作業を安全におこなうために

農林水産省より、安全に農作業に従事できるように、農業機械を使用するときの注意事項が「農作業安全基準」として定められています。ここに、ホイール型運搬車を使用される方のために、特に重要な項目を「農作業安全基準」より抜粋しております。熟読の上、事故のない楽しい農作業のためにお役立てください。

一般共通事項

(1) 適用範囲

一般共通事項は、農業機械を使用して行う作業に従事する者が農作業の安全を確保するための注意すべき事項を示すものである。

(2) 就業条件

①安全作業の心得

農業機械を使用して行う作業（以下、「機械作業」という）に従事する者は機械の操作の熟練に努め、自己の安全を図ると共に、補助作業者及び他人に危害をおよぼさないように、機械を正しく運転することに努めること。

②就業者の条件

次に該当する者は、危険を伴う機械作業に従事しないこと。

- 精神病患者
- 酒気をおびた者
- 若年者
- 未熟練者
- 過労・病気・薬物の影響その他の理由により正常な運転操作ができない者。

激しい作業が続く場合には、特に健康に留意し、適当な休憩と睡眠をとること。
妊娠中の者は、振動を伴う機械作業に従事しないこと。

③特殊温湿度環境下の安全

暑熱、寒冷及び高湿の環境における作業に際しては、安全を確保するため作業時間及び方法等を十分に検討すること。

(3) 子供に対する安全配慮

機械には、子供を同乗させないこと。また、機械には子供を近寄らせないように注意すること。

(4) 安全のための機械管理

① 日常の点検整備

農業機械は、使用の前後に日常の点検整備を行い、常に機械を安全な状態に保つこと。

② 防護装置の点検

- 機械作業に従事する者は、機械の操縦装置、制御装置、防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が發揮できるようにしておくこと。
- 機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は、必ず復元しておくこと。

③ 掲げ装置の落下の防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行う場合には、ロック装置のあるものについて、必ずこれを使用し、かつ、ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

④ 整備工具の管理

点検整備に必要な工具類を適正に管理し、正しく利用すること。

(5) 火災・爆発の防止

① 引火・爆発物の取り扱い

引火または、爆発の恐れのある物質の貯蔵・補給等にあたってはその取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

② 火災予防の措置

火災の恐れがある作業場所には、消火器を備え、喫煙場所を決める等火災予防の措置を講じること。

(6) 服装および保護具の使用

次の農作業に際しては、適正な服装及び保護具を用い、危険のないよう作業に従事すること。

① 頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び、落下物の恐れの大きい場合、交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

② 巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には、衣服の一部、頭髮、手拭き等が巻き込まれないように適正な帽子および、作業衣等を使用すること。

③足の障害及びスリップ防止の措置

機械作業において、作業機等の落下、土礫の飛散、踏付け、踏抜き及びスリップ等の恐れのある場合は、これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

④粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあつては、粉じん及び有害ガスによる危害防止のための適正な保護具を使用すること。

⑤農薬に対する措置

防除作業においては、呼吸器、眼、皮膚等からの農薬による障害防止のために適正な保護具（保護衣を含む）を使用すること。

⑥激しい騒音に対する措置

激しい騒音の伴う作業にあつては、耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

⑦保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し、正しく使用すること。

移動機械共通事項

(1) 適用範囲

移動機械共通事項は、地上を移動しながら作業するトラクターその他の移動機械を使用して行う作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

(2) 作業前の注意事項

①機械の点検整備

- 機械の点検整備を十分行い、その使用にあたっては、常に安全を確保すること。
- 機械の点検整備、手入れ及び作業機の装着等は、交通の危険がなく平坦である等、安全な場所でかつ安全な方法で確実に行うこと。特に、屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行う場合は、換気に注意すること。

②防護装置の保全

- 機械に取り付けられた防護装置は、常に有効に作用する状態に保っておくこと。
- 機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は、必ず復元し、その機能を十分に発揮できるようにしておくこと。

③悪条件下における作業

土地条件、気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については、実施の判断、作業方法及び装備の選択等に注意すること。

(3) 作業中の注意事項

①乗車等の禁止

- 機械作業に際して機械には、指定の箇所以外に他人を乗せないこと。また、指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。
- 非常の場合を除いて、運行または作業中の機械に飛び乗り、またはこれから飛び降りないこと。
- 機械作業中は、作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

②前方及び後方の安全確認

- 運転中または作業中は、常に機械の周囲に注意し、安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

③転倒落下の防止

- 傾斜地における機械作業においては、機械の転倒を防ぐために速度、旋回、作業方法等に注意して運転操作を行うこと。
- 圃場への出入り、溝また畦畔の横断、軟弱地の通過等に際しては、機械の転落を防ぐために、特に注意すること。
- 機械の積み降ろしに際しては、機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ、十分注意して行うこと。

④傷害の防止

- 動力伝導装置・回転部等の危険な部分には、作業中接触しないように注意すること。

⑤道路走行の安全

- 道路走行にあたっては、関係法規を守り、安全に運転すること。
- 道路走行にあたっては、他の自動車走行の妨げとならないように留意すること。
- 悪条件の道路での高速運転の禁止
凹凸のはげしい道路、曲折のはげしい道路等においては、高速で運転しないこと。
- 坂道時は、必ずエンジンプレーキを用いること。また、操向クラッチを使用しないこと。登坂時における発進では、前輪の浮上りに注意すること。

⑥夜間における安全

夜間作業においては、とくに安全に注意し、的確な照明を行うこと。
夜間給油を行う場合は、裸火等を使用せず、安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

⑦作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は、必ず原動機を止め、安全な状態で行うこと。
休けい等で機械を離れる場合は、機械を安定した場所におき、作業機を下し、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は、さらに車止めを施して、自然発車等の危険が生じないように注意すること。

(4) 終業後の注意事項

①終業後の点検整備

作業終業後は、必ず次の作業のため機械の点検整備を行うこと。

②機械の安全管理

作業終了後は、作業機をはずし、または降ろし、機械を安定した場所に置き、かつ、安全な停止状態を保つように注意すること。
また、危険と思われる機械は、格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態におくこと。

サービス資料

主要諸元

名 称			ホイール型運搬車(小型特殊自動車「ホイール・キャリア」)	
型 式			SL50DB	SL50DEB
最 大 作 業 能 力(kg)			600	
車 体	質 量(kg)		400	405
	全 長(mm)		2940~3280	
	全 幅(mm)		1210	
	全 高(mm)		1280	
荷台内寸(長×幅×枠高)(mm)			1830×1080×240	
荷 台 面 地 上 高(mm)			520	
走 行 部	走 行 形 式		4輪／後2輪駆動	
	操 向 形 式		アッカーマンジャント式	
	ブ レ ー キ 形 式		内払式(後二輪 Φ180)	
	タイヤサイズ	前 輪	AG4.00-8-4PR HF209	
		後 輪	AG19×8.00-10-4PR	
	ト レ ッ ド (mm)	前 輪	850	
		後 輪	770	
	ホ イ ール ベ ース(mm)		1510	
	変 速 段 数		前進-3速, 後進-1速	
	走行速 (km/h)	前 進	第 1 速	3.3
第 2 速			7.1	
後 進		第 3 速	12.3	
		第 1 速	3.3	
最 低 地 上 高(mm)			145	
最 小 回 転 半 径(m)			2.45	
エ ン ジ ン	種 類 ・ 型 式		空冷ガソリン・FE170G-AE58	空冷ガソリン・FE170G-BE55
	定格(最大)出力(kW{PS}/min ⁻¹)		3.1{4.2}/1800 (4.1{5.6}/2000)	
	最大トルク(Nm{kgf・m}/min ⁻¹)		22.2{2.25}/1400	
	総 排 気 量(cc)		171	
	燃料(タンク容量)(ℓ)		自動車用無鉛ガソリン(3.4)	
	始 動 装 置		リコイルスタータ	セルスタータ
	発 電 装 置		12V-25W・レギュレータ	
作 業	名 称		油圧ダンブ	
	最 大 能 力(kg)		500	
	装 置 仕 様		複同シリンダ	
	ダ ン プ 角 度(度)		60	
登 録 型 式			アテックス SL41	
型 式 認 定 番 号			特739	

サービス資料

名 称			ホイール型運搬車(小型特殊自動車「ホイール・キャリア」)		
型 式			SL55DB	SL55DEB	
最 大 作 業 能 力(kg)			600		
車 体	質 量(kg)		450	455	
	全 長(mm)		2940~3280		
	全 幅(mm)		1210		
	全 高(mm)		1280		
荷台内寸(長×幅×枠高)(mm)			1830×1080×240		
荷 台 面 地 上 高(mm)			520		
走 行 部	走 行 形 式		4輪／4輪駆動(パートタイム)		
	操 向 形 式		アッカードマンジャント式		
	ブ レ ー キ 形 式		内拡式(後二輪 Φ180)		
	タイヤサイズ	前 輪	AG4.00-8-4PR A250		
		後 輪	AG19×8.00-10-4PR		
	ト レ ッ ド (mm)	前 輪	850		
		後 輪	770		
	ホイールベース(mm)		1510		
	変 速 段 数		前進-3速, 後進-1速		
	走行速 (km/h)	前 進	第 1 速	3.3	
第 2 速			7.1		
第 3 速			12.3		
後 進			第 1 速	3.3	
最 低 地 上 高(mm)			145		
最 小 回 転 半 径(m)			2.65		
エ ン ジ ン	種 類 ・ 型 式		空冷ガソリン・FE170G-AE58	空冷ガソリン・FE170G-BE55	
	定格(最大)出力(kW{PS}/min ⁻¹)		3.1{4.2}/1800 (4.1{5.6}/2000)		
	最大トルク(Nm{kgf・m}/min ⁻¹)		22.2{2.25}/1400		
	総 排 気 量(cc)		171		
	燃料(タンク容量)(ℓ)		自動車用無鉛ガソリン(3.4)		
	始 動 装 置	リコイルスタータ			セルスタータ
	発 電 装 置	12V-25W・レギュレータ			
作 業	名 称		油圧ダンプ		
	最 大 能 力(kg)		500		
	装 置 仕 様		複同シリンダ		
	ダンプ角度(度)		60		
登 録 型 式			アテックス SL41		
型 式 認 定 番 号			特739		

サービス資料

※[]内数値はセル仕様

名 称			ホイル型運搬車(小型特殊自動車「ホイル・キャリア」)	
型 式			SL50KBA[KEBA]	SL55KBA[KEBA]
最 大 作 業 能 力(kg)			600	
車 体	質 量(kg)		345[350]	395[400]
	全 長(mm)		2940～3215	
	全 幅(mm)		1210	
	全 高(mm)		1280	
荷台内寸(長×幅×枠高)(mm)			1830×1080×240	
荷 台 面 地 上 高(mm)			520	
走 行 部	走 行 形 式		4輪／後2輪駆動	4輪／4輪駆動(パートタイム)
	操 向 形 式		アッカーマンジャント式	
	ブ レ ー キ 形 式		内括式(後二輪 Φ180)	
	タイヤサイズ	前 輪	AG4.00-8-4PR HF209	AG4.00-8-4PR A250
		後 輪	AG19×8.00-10-4PR	
	ト レ ッ ド (mm)	前 輪	850	
		後 輪	770	
	ホ イ ール ベ ース(mm)		1510	
	変 速 段 数		前進-3速, 後進-1速	
	走行速 (km/h)	前 進	第2速	3.3
第3速			7.1	
第1速			12.3	
後 進		第1速	3.3	
最 低 地 上 高(mm)			145	
最 小 回 転 半 径(m)			2.45	2.65
エ ン ジ ン	種 類 ・ 型 式		空冷ガソリン・FE170G-AE60 [空冷ガソリン・FE170G-AE59]	
	定格(最大)出力(kW{PS}/min ⁻¹)		3.1{4.2}/1800 (4.1{5.6}/2000)	
	最大トルク(Nm{kgf・m}/min ⁻¹)		22.2{2.25}/1400	
	総 排 気 量(cc)		171	
	燃 料 (タンク容量) (ℓ)		自動車用無鉛ガソリン (3.4)	
	始 動 装 置		リコイルスタータ [セルスタータ]	
	発 電 装 置		12V-25W・レギュレータ	
作 業	名 称		――	
	最 大 能 力(kg)		――	
	装 置 仕 様		――	
	ダ ンプ 角 度(度)		――	
登 録 型 式			アテックス SL41	
型 式 認 定 番 号			特739	

サービス資料

名 称			ホイール型運搬車(小型特殊自動車「ホイール・キャリア」)	
型 式			SL50KEB	SL55KEB
最 大 作 業 能 力(kg)			600	
車 体	質 量(kg)		350	400
	全 長(mm)		2940~3215	
	全 幅(mm)		1210	
	全 高(mm)		1195	
荷台内寸(長×幅×桙高)(mm)			1830×1080×240	
荷 台 面 地 上 高(mm)			520	
走 行 部	走 行 形 式		4輪/後2輪駆動	4輪/4輪 駆動 (パートタイム)
	操 向 形 式		アッカーマンジャント式	
	ブ レ ー キ 形 式		内拵式(後二輪 Φ180)	
	タイヤサイズ	前 輪	AG4.00-8-4PR HF209	AG4.00-8-4PR A250
		後 輪	AG19×8.00-10-4PR	
	ト レ ッ ド (mm)	前 輪	850	
		後 輪	770	
	ホ イ ール ベ ース(mm)		1510	
	変 速 段 数		前進-3速, 後進-1速	
	走行速 (km/h)	前 進	第2速	3.3
第3速			7.1	
後 進		第1速	12.3	
		第1速	3.3	
最 低 地 上 高(mm)			145	
最 小 回 転 半 径(m)			2.45	2.65
エ ン ジ ン	種 類 ・ 型 式		空冷ガソリン・FE170G-AE60 [空冷ガソリン・FE170G-AE59]	
	定格(最大)出力(kW{PS}/min ⁻¹)		3.1{4.2}/1800 (4.1{5.6}/2000)	
	最大トルク(Nm{kgf・m}/min ⁻¹)		22.2{2.25}/1400	
	総 排 気 量(cc)		171	
	燃料(タンク容量)(ℓ)		自動車用無鉛ガソリン(3.4)	
	始 動 装 置		セルスタータ	
	発 電 装 置		12V-25W・レギュレータ	
作 業	名 称		――	
	最 大 能 力(kg)		――	
	装 置 仕 様		――	
	ダ ン プ 角 度(度)		――	
登 録 型 式			アテックス SL41	
型 式 認 定 番 号			特739	

(SL50KBA, SL50KEBA, SL50KEB, SL55KBA, SL55KEBA, SL55KEB)

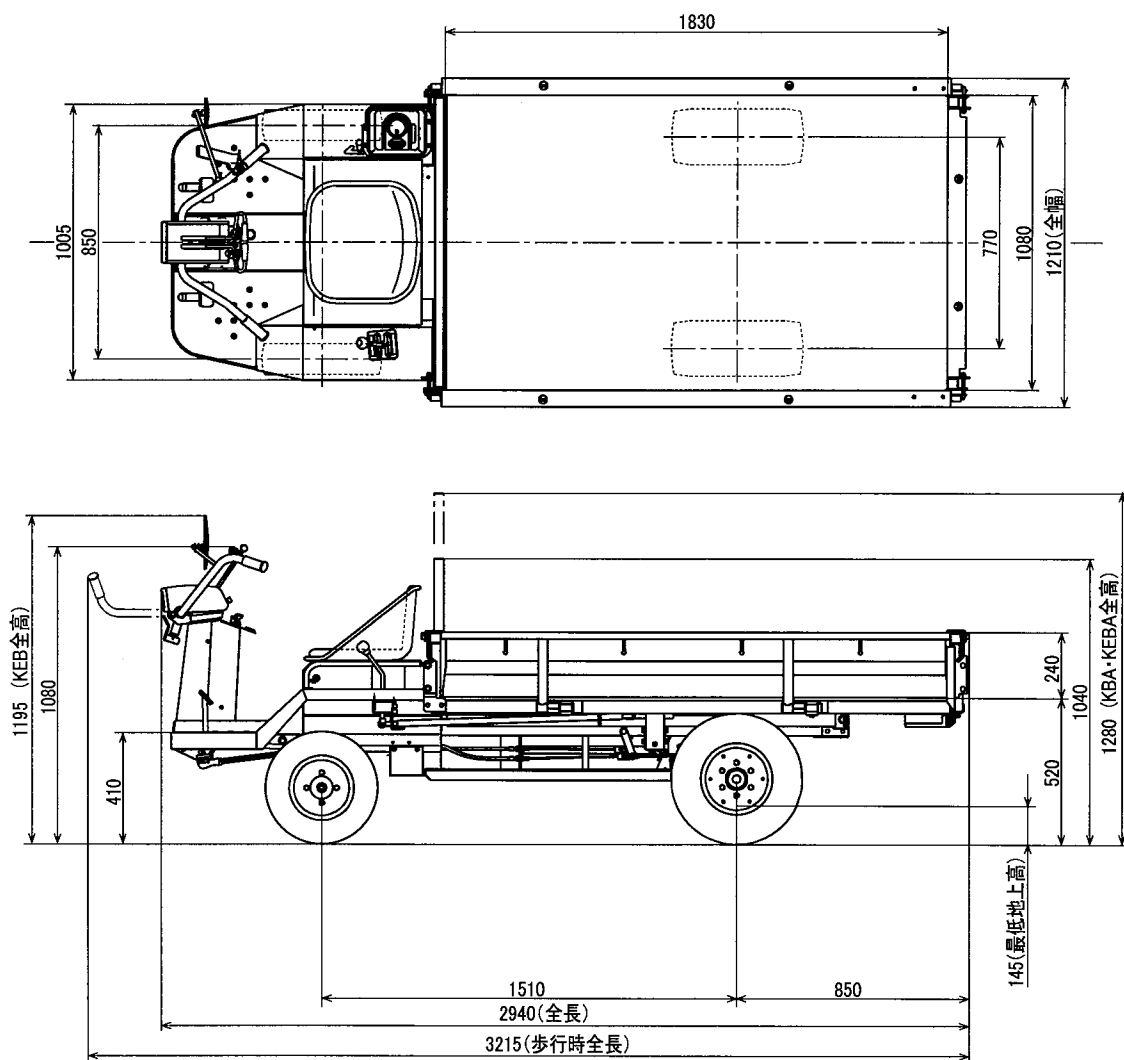
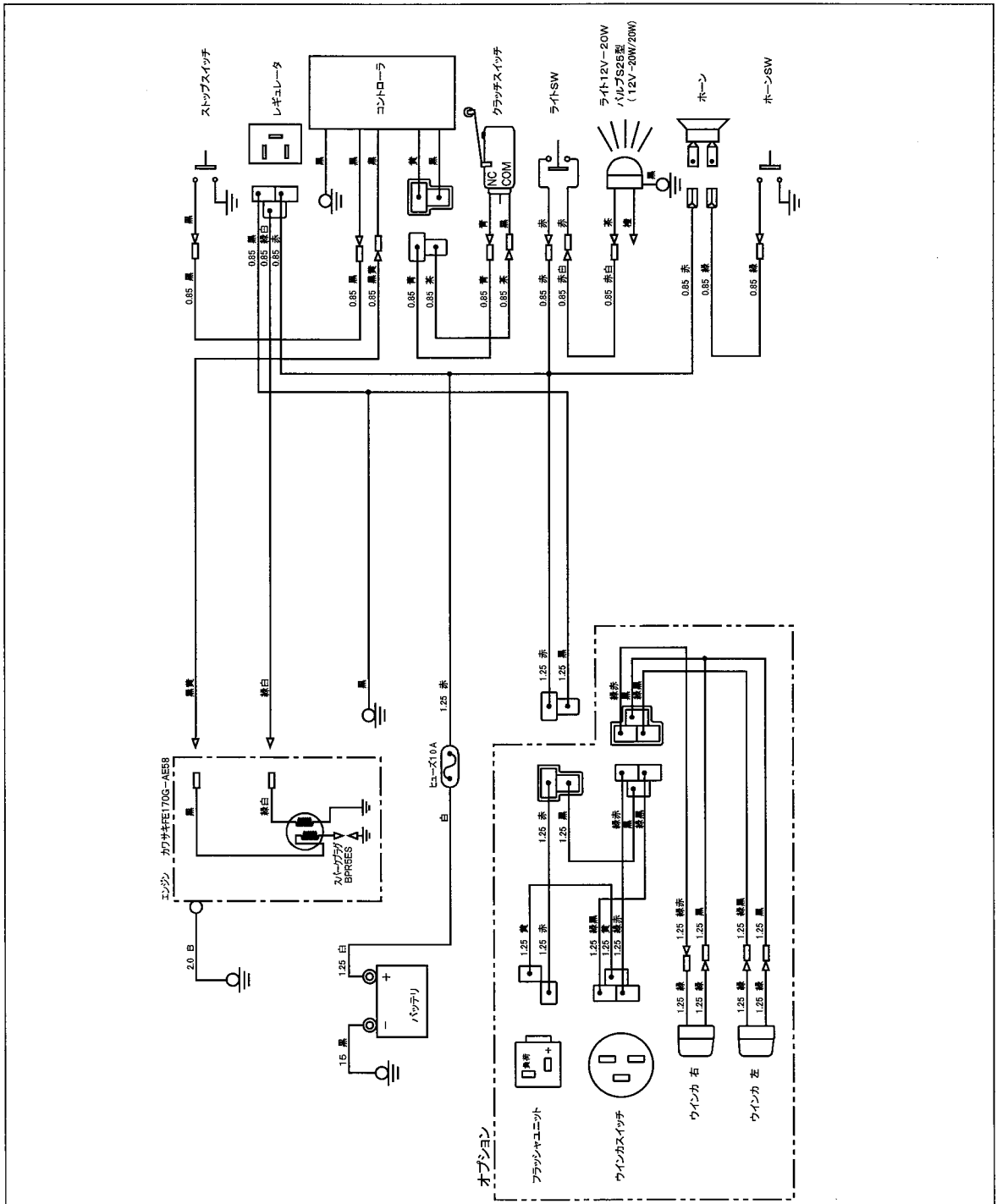


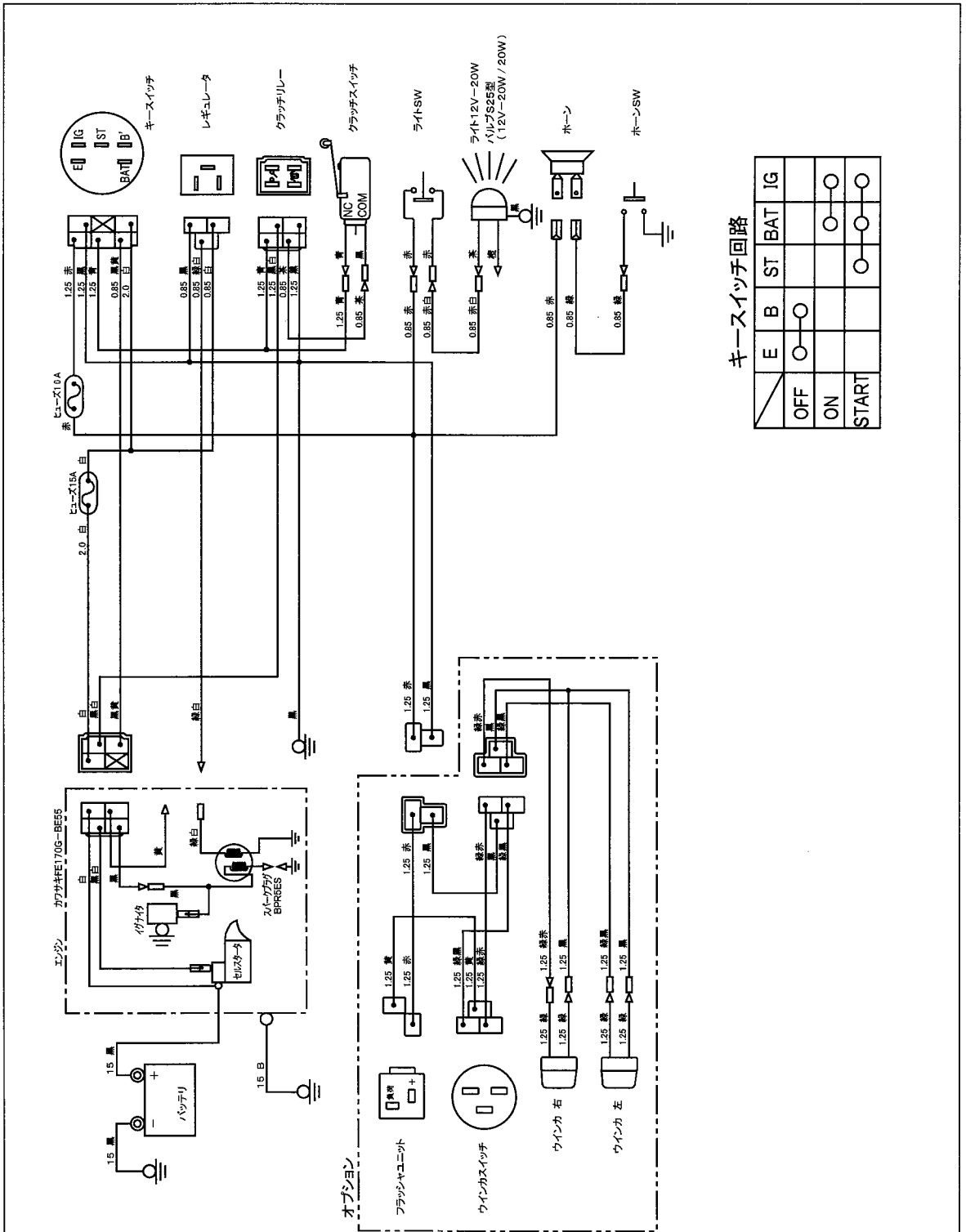
イラスト: SL50KEB

配線図

(リコイルスタータエンジン仕様)



(セルスタータエンジン仕様)

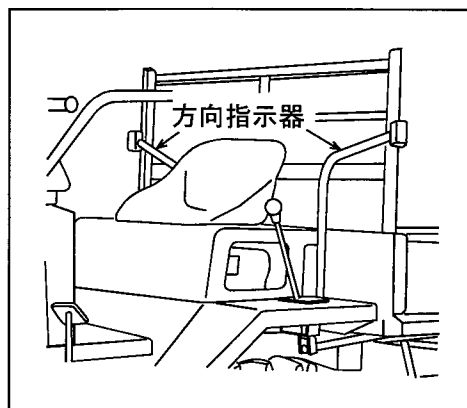


注文部品および主な消耗品

●注文部品

- 方向指示器 (ウイカ SET ; 0458-700-003-0)

周囲に自分の曲がる方向を合図する装置です。



●主な消耗品

項 目	該 当 型 式	使用箇所	品 名	部 品 番 号
タイヤ	SL50 (全仕様)	前輪用	タイヤ (4PR) 2WD	0456-321-201-0
	SL55 (全仕様)	前輪用	チューブ	0410-302-202-0
	全型式	後輪用	タイヤ	0437-340-201-0
			チューブ	0437-340-202-0
Vベルト	全型式	走行用	Vベルト(SB31 レッド)	V817-200-031-0
		油圧用	ベルト(V ヲク A23-A)	0439-520-011-0
電球	全型式	ランプ内	12V-20W/20W(S25)	0437-711-201-1A
ヒューズ	全型式	電気配線	ヒューズ 10A	P115-430-302-0A
	セル仕様		ヒューズ 15A	P115-430-301-0A
ブレーキシュー	全型式	後輪部	ブレーキシュー	0439-330-201-0

索引

あ	アクセルペダル ----- 27・60	な	ナンバープレート----- 5
	アユミ板 ----- 16		2 駆・4 駆切換えレバー ----- 31
	安全のポイント ----- 8		燃料コック ----- 36
	安全表示ラベル ----- 3・4		
	後枠開閉フック ----- 70	は	配線図 ----- 93・94
	運転免許証 ----- 7		発進のしかた ----- 41
	エンジンオイル ----- 53		バッテリー ----- 58・59
	エンジンの始動 ----- 11・36		ハンドルセットレバー ----- 33
か	外観図 ----- 91・92		ヒューズ ----- 58・95
	キースイッチ ----- 25		フィルタポット ----- 53
	給油 ----- 11・53		ブレーキシュー ----- 68
	クラッチペダル ----- 29		ブレーキペダル ----- 30
	小型特殊自動車 ----- 5		ブレーキロッド ----- 66
さ	最大作業能力 ----- 47		フロントデフのオイル交換 ----- 55
	重要・安全ポイント ----- 2		ホーンボタン ----- 26
	主要緒元 ----- 87～90		手入れと格納 ----- 74
	乗車定員 ----- 12		保険 ----- 7
	消耗品 ----- 94		保障とサービス ----- 23
	ストップスイッチ ----- 25	ゆ	油圧操作 ----- 49
	スロットルレバー ----- 27		
	制動 ----- 45・46	ら	ランプスイッチ ----- 26
	積載量について ----- 7		
	旋回のしかた ----- 42		
	走行のしかた ----- 41		
	走行クラッチレバー ----- 28		
た	タイヤ ----- 68・95		
	ダンプレバー ----- 31		
	チェンジレバー ----- 28		
	駐車 ----- 45・46		
	駐車ブレーキレバー ----- 29		
	長期格納 ----- 21・74・75		
	チョークレバー ----- 37		
	積み込み、積み降ろし ----- 15・16・17		
	停車 ----- 45・46		
	デフロックレバー ----- 30		
	点検整備 ----- 51・52		
	電装品の取扱い ----- 57・58・59		
	トーイン ----- 69		

困ったり、わからないことがあれば

販売店

住所 〒 —

TEL — —

担当；

までご連絡ください。

型 式

製造番号

※ご使用になる前にメモしておく、万一、修理の依頼をされるときに役立ちます。

豊かさを創造し、未来へ挑戦する 株式会社アテックス

本 社 愛媛県松山市衣山 1 丁目 2 - 5 〒791-8524
TEL (089) 924-7161 (代) FAX (089) 925-0771
TEL (089) 924-7162 (営業直通)
ホームページ <http://www.atexnet.co.jp/>

東 北 営 業 所 岩手県紫波郡矢巾町広宮沢第 11 地割北川 505 - 1 〒028-3621
TEL (019) 697-0220 (代) FAX (019) 697-0221

関 東 支 店 茨城県猿島郡五霞町元栗橋 6 6 3 3 〒306-0313
TEL (0280) 84-4231 (代) FAX (0280) 84-4233

中 部 営 業 所 岐阜県大垣市本今 5 丁目 1 2 8 〒503-0931
TEL (0584) 89-8141 (代) FAX (0548) 89-8155

中 四 国 支 店 愛媛県松山市衣山 1 丁目 2 - 5 〒791-8524
TEL (089) 924-7162 FAX (089) 925-0771

九 州 営 業 所 熊本県菊池郡菊陽町大字原水 1 2 6 2 - 1 〒869-1102
TEL (096) 292-3076 (代) FAX (096) 292-3423

部品センター 愛媛県松山市馬木町 8 9 9 - 6 〒799-2655
TEL (089) 979-5910 (代) FAX (089) 979-5950

部品コード

0458-942-012-0